

**診療室内における歯科補てつ装置の審美性・機能性等の
調和および確認等による歯科技工士の技術評価の調査**

調査報告書

日本歯科技工学会
調査・研究委員会

INDEX (目次)

掲載ページ

I. 調査概要	1頁
1. 調査目的	
2. 調査体制	
3. 調査対象	
4. 調査方法	
5. 調査期間	
6. 標本数	
7. 有効回答数	
8. 調査委員会	

II. 回答者プロフィール分析	2頁
1. 年齢と性別	
2. 就業の形態と規模	
3. 経験年数	
4. 専門分野 (複数回答)	
5. 専門士・認定士	

III. 総括	3頁
---------	----

IV. 集計結果報告書	
① 歯科技工士調査編	6頁
② 歯科医師調査編	22頁

※別冊の添付資料をご参照ください

掲載ページ

V. 添付資料 (別冊)	
1. 調査協力依頼文書	1頁
2. 歯科技工士回答者プロフィール調査表	2頁
3. 歯科医師回答者プロフィール調査表	3頁
4. 歯科技工士アンケート調査票	4頁
5. 歯科医師アンケート調査票	6頁
6. クロス集計表／歯科技工士調査編	8頁
7. クロス集計表／歯科医師調査編	32頁
8. GT (Grand Total) 資料 (CD-ROM)	CD-ROM

I. 調査概要

1. 調査目的

国民に良質な歯科医療の提供を確保するため、歯科補てつ装置等の作成を委託した歯科医師と受託した歯科技工士の双方に、歯科医療に供する歯科補てつ装置等を作成する上で、当該歯科医師の指示の下、歯科技工士が当該歯科診療所内等において作成工程上の歯科補てつ装置の患者への審美的な調和や機能性等について確認作業を行うアンケート調査を行い、その有効性を把握するとともに、歯冠修復および有床義歯の製作に関わる適正な技術評価を得ることを目的とする。

2. 調査体制

本学会会員の中から調査・研究委員会を構成し、調査項目、対象者等を検討した上でアンケート調査を実施。「株式会社アクロス」にて集計、本委員会にて報告書としてまとめた。

3. 調査対象

本学会会員の中から年齢、性別、就業形態、経験年数等を勘案し、その比例按分数を無作為抽出した歯科技工士会員、全歯科医師会員ならびに関係施設。

4. 調査方法

対象会員へ送付、無記名回答

5. 調査期間

平成24年1月～平成24年2月

6. 標本数

2,176名、33施設

7. 有効回答数

817名

8. 調査委員会

委員長	末瀬	一彦
委員	池田	正臣
	時見	高志
	福間	泰弘
オブザーバー	齊木	好太郎
	古橋	博美

Ⅱ. 回答者プロフィール分析

1. 年齢と性別

歯科技工士の回答者全体でみると「50歳～59歳」297人(36.4%)、「40歳～49歳」192人(23.5%)、「60歳～69歳」144人(17.6%)の順となっており、平均年齢は〔50.7歳〕となっている。平成22年度保健・衛生行政報告例によると歯科技工士の就業者数は35,413人で、50～54歳が15.4%と最も多く、また、「男性」749人(83.1%)、「女性」68人(16.9%)であり、歯科技工士の高齢化が進んでいることと、女性の就業者数の割合が増加している。

また、歯科医師の回答者全体でみると「50歳～59歳」35件(46.1%)、「40歳～49歳」20人(26.3%)、「39歳以下」9人(11.8%)の順となっており、平均年齢は〔51.2歳〕となっている。

2. 就業の形態と規模

歯科技工士の回答者全体の就業形態は、歯科技工所自営者が437人(53.5%)と最も多く、歯科技工所勤務者が150人(18.4%)、診療所勤務が141人(17.3%)、病院勤務が55人(6.7%)である。就業規模は、1人が345人(17.3%)と最も多く、2～5名が292人(17.3%)と次ぐ。平成22年保健・衛生行政報告例によると就業する歯科技工士全体の就業場所では、歯科技工所が68.5%、病院・診療所が29.9%、その他1.5%である。

また、歯科医師の回答者全体でみると、大学病院勤務が60人(78.9%)と最も多く、歯科診療所開業が7人(9.2%)、歯科診療所勤務者が3人(3.9%)、その他6人(7.9%)である。

3. 経験年数

経験年数は、歯科技工士の場合、「30～35年未満」の人が全体の175人(21.4%)と最も多く、「20年以上」の経験者が76.3%を占める。また、歯科医師の回答者では、「25年～30年未満」19件(25.0%)、「30年～35年未満」16件(21.1%)、「15年～20年未満」9件(11.8%)、「20年～25年未満」9件(11.8%)の順となっている。

4. 専門分野（複数回答）

歯科技工士の回答者全体におけるそれぞれの専門分野（複数回答）では、クラウン・ブリッジが28.5%と最も多く、有床床義歯の24.1%、セラミックスの18.7%、インプラントの11.3%、金属床義歯の9.5%、矯正装置の5.1%と続く。歯科医師の回答者全体では、クラウン・ブリッジが32.8%、有床床義歯24.1%、インプラント・顎顔面補綴13.8%、保存の9.5%と続く。

5. 専門士・認定士

歯科技工士回答者の専門士・認定士の取得状況については、全体でみると「日本歯科技工学会」126人(15.4%)、「日本口腔インプラント学会」22人(2.7%)、「日本顎咬合学会」5人(0.6%)、「日本歯科審美学会」4人(0.5%)の順となっている。歯科医師の回答者全体では、「日本口腔インプラント学会」13人(17.1%)、「日本接着歯学会」11人(14.5%)、「日本顎顔面補綴学会」10人(13.1%)の順となっている。

Ⅲ. 総 括

診療室内における歯科補てつ装置の審美性・機能性等の調和および
確認等による歯科技工士の技術評価に関する調査・研究委員会

委員長 末瀬 一彦

近年の歯科医療を取り巻く環境は、超高齢社会を迎え歯科医療の役割はますます重要になり、健全な天然歯を80歳で20本以上残そうとする8020運動の推進が精力的におこなわれているが、高齢化に伴って歯の喪失は依然として増え続けている現状もある。加えて、歯牙、歯列、歯列と顔貌との調和など審美性の要求も求められている。

そのためには欠損に対する補綴物の装着により、国民の快適な日常生活を支えるための審美性や機能の改善は国民の求める歯科医療であり、歯科医療術者にとっても大きな責務である。

また他方では、ハンドメイドによる技術からCAD/CAMに代表されるIT技術が導入され、それに伴う新素材の開発で生体に安全で審美性の高い歯科補てつ物の提供も可能となってきている。

現在の歯科補綴物製作の流れは、歯科医師によって印象採得された模型製作から始まり、多くの場合は、歯科医師が記載した指示書に基づいて歯科技工所への外注委託、すべての製作過程は歯科技工所（室）内で行われ、完成物が歯科診療所に納品され、歯科医師によって患者に装着されているのが実態であろう。歯科補綴物のトレーサビリティがクローズアップされるなか、歯科技工士は製作対象者である患者の顔や歯を全く観ることなく補綴物が完成されていることは、安全・安心の歯科医療を国民に提供することから鑑みて、決して好ましいこととはいえない。当然ながら、歯科医師法や歯科技工士法から国家資格を有する歯科技工士であっても、直接患者に対する診療行為は禁じられているが、診療室内における立ち会い業務を禁じているものではない。そこで、「歯科技工士の診療立ち会い」に関する実態について歯科技工士および歯科医師に対して調査を行い、患者のための良質な歯科医療が提供できるよう検討を行った。

●歯科技工士に対する調査結果から

今回の調査に応じた歯科技工士の平均年齢は50.7歳、60%が50歳以上の回答であったことは、現在の就業歯科技工士の年齢構成を反映しているものであるが、学会認定士や専門士を取得している割合は30%であった。歯科技工士の診療室における立ち会い業務を遂行する上で、専門特化された認定士や専門士の取得は今後さらに必要であると考えられる。また、一人開業の歯科技工士42%、それを含めた5人以内の小規模歯科技工所が78%を占めていることも現在の歯科技工所形態と一致する。歯科診療所のチェアサイドでの立ち会い経験は86%に認められたが、歯科技工経験年数が高い方が多く、約70%が25年以上の経験年数者であった。また、1カ月に立ち会う頻度は、1回と5回以上が多く、経験年数が10年以上になると5回以上の頻度が多くなる傾向があった。また、病院勤務の歯科技工士は100%、歯科診療所勤務の歯科技工士は95%立ち会いを行った経験があり、歯科技工所経営者においても91%経験していた。歯科技工士が診療室における立ち会い業務を行うためには、可及的に院内ラボに勤務する歯科技工士の存在が最も好ましいが、診療室にほど近いところに位置する小規模歯科技工所からも緊急時の対応が可能となることも考えられる。立ち会いを行う補綴物の種類はメタルボンドクラウン（自費）が最も多く、次いで有床義歯関係（保険）、硬質レジン前装鑄造冠（保険）、インプラント上部構造（自費）で、歯科技工士の専門分野と合致していたが、保険診療に比較して自費診療での立ち会いは圧倒的に多かった。特に、メタルボンドクラウン、硬質レジン、セラミックス関係の立ち会いは30年未満の経験年数の歯科技工士に多く、有床義歯関係では30年以上の経験年数の歯科技工士に多い傾向があった。

歯科技工士側から立ち会いの目的は、色調>咬合関係>形態>排列>適合>説明の順であったが、病院技工部勤務の歯科技工士は、色調に次いで、形態や配列などの有床義歯関係が多かった。患者からの相談については60%が経験しており、経験年数25年以上の歯科技工士に多く、歯科技工士の専門分野とは関係なかった。患者からの相談内容については、色調>形態>違和感>咬合>排列>発音で、色調については経験年数を問わず相談が多いが、違和感、咬合、発音などについて経験年数が高い方が多い傾向にあった。歯科技工士側から感じた患者の相談結果の満足度は96%が満足しており、経験年数が高いほど満足度が高かった。歯科技工士が患者に対して行った説明内容は、使用する材料（73%）、他の材料との違い（69%）でいずれも70%近くが補綴物に関する材料についてであった。歯科技工士が関わる補綴物の構造や製作方法に関する内容は30~40%であった。特に歯科技工士の専門分野との関わりはなかったが、有床義歯に関しては、補綴物の取り扱い方や使用上の注意点などが多かった。説明に対して患者は95%がほぼ理解したと感じていた。歯科技工士が立ち会うことによって補綴物の品質向上につながったと感じたのは93%で、セラミックス修復や有床義歯において多く、歯科診療所勤務や病院技工部の院内技工において多く向上につながったと回答した。歯科技工士にとって立ち会いの効果については、品質向上（67%）、歯科医師とのコミュニケーションの円滑（53%）が半数以上であったが、40歳未満の若い歯科技工士では治療のプロセスがスムーズになったことを半数近く上げていた。立ち会いを行った場合の費用請求について、84%は請求していないと回答し、外部委託の技工であっても80%は請求していない。請求している場合、セラミックス修復やインプラント上部構造、矯正においてやや多かった。請求している歯科技工士においてもその請求額については無回答が50%近くあったが、平均請求額は1回あたり5,585円で、有床義歯系は、セラミックス修復やインプラント上部構造に比較して若干低かった。保険診療における歯科技工士の立ち会い費用の算定については、80%が診療報酬に加算評価することが望ましいと考えている。有床義歯の修理を2日以内に行ったことがあると回答したのは60%であったが、診療所勤務および病院技工部の歯科技工士は約80%が2日以内に行っていた。

今回の調査研究に回答された歯科技工士においては、その多くが歯科医師の指示に基づいて患者に対する立ち会いの経験があり、院内歯科技工所勤務の歯科技工士だけでなく、受託側の歯科技工所の歯科技工士も立ち会いを経験しており、いずれも歯科補綴物製作にあたって品質向上に繋がり、歯科医師とのコミュニケーションの円滑化を利点として挙げている。特に、自費診療におけるセラミックス修復やインプラント上部構造技工などのような審美的あるいは複雑な歯科技工においては理解できるが、保険診療である有床義歯の製作において立ち会いが多いことは特記すべきである。近年のデジタル情報化によって、色調面に関しては、デジタルカメラや測色器のデータによって正確に伝達できるようになったが、患者の表情に応じた審美、すなわち機能的な審美を再現するためには、製作者である歯科技工士が直接患者の表情を観察することは極めて大きな意義がある。また、有床義歯における歯科技工士の立ち会いによって、患者の顔貌や表情などを観察することは人工歯選択、排列にも大きなメリットがある。しかし、今回の調査内容から、立ち会い時に患者に対して行った説明内容のなかでは、依頼した歯科医師の期待に応じて、使用材料に関わる内容が極めて多かったが、本来、製作する歯科補綴物に関する材料的なことは、歯科医師とのコミュニケーションで十分行すべきことで、患者に対しては歯科医師から説明すべきであると考えられる。むしろ製作方法、補綴物の構造、補綴物の取り扱い方に関しては歯科技工士が製作責任者として患者に的確に説明すべきで、補綴物の料金に関しては歯科医師がカウンセリングすべきであろう。自費診療において、患者に対してより品質の高い歯科補綴物を提供するために歯科技工士の診療室での患者への立ち会い業務は必須である。一方、歯科診療所や病院技工部に勤務する歯科技工士においては立ち会いする機会も多く、また有床義歯の修理も2日以内で行うことが多いことから、患者に対して良質、迅速な歯科医療を提供するためには、診療室での歯科技工士の位置づけについて再考すべきで、保険診療においても診療報酬のなかに歯科技工士の立ち会いに関わる加算評価すべきであろう。

●歯科医師に対する調査結果から

今回の調査に回答された歯科医師においては、チェアサイドでの歯科技工士の立ち会いについて依頼したことがあるかあるいはその必要性を感じているのが96%以上あり、患者に高品質な補綴装置を提供するためには歯科補綴物製作におけるチーム医療の重要性を理解している。しかし、歯科技工士の立ち会いに期待しているのは、使用材料に関する内容であることが半数近くあったが、本来材料的な内容は歯科医師から患者に説明すべきで、製作方法や補綴物の構造などについて歯科技工士が説明することを期待すべきであろう。歯科技工士の立ち会う頻度は、1カ月に5回以上が最も多く、歯科技工士からの回答を上回る回数で、歯科補綴物製作における歯科技工士に対する期待を感じる。保険診療で立ち会う補綴物の種類は、硬質レジン前装鑄造冠と全部床義歯がほぼ同程度の割合を占めたが、自費診療ではメタルボンドクラウンやオールセラミッククラウンにおける立ち会いが高い割合であった。患者および歯科医師の審美修復への高い要求の表れであると考えられる。歯科技工士に立ち会いを依頼する目的では、色調や形態に関わる内容が圧倒的に多く、精度の高い審美性への要望であると思われる。90%以上の歯科医師は歯科技工士の立ち会いを患者に説明し、理解を得ている。歯科技工士の立ち会いによって最終補綴装置に対して90%以上は患者が満足し、95%の歯科医師は品質向上につながったと回答している。さらに歯科医師は歯科技工士の立ち会いによって治療のプロセスがスムーズにいくことを指摘しており、歯科補綴装置に関する患者とのコミュニケーションのストレスも軽減していると思われる。歯科技工士の立ち会いに伴う費用請求について、80%は請求されなかったとし、歯科技工士側の回答（84%）とほぼ同調した。保険診療における歯科技工士立ち会いの評価については、73%の歯科医師が診療報酬に加算評価すべきであるとし、患者に対して良質な歯科補綴物が提供でき、治療のプロセスも円滑であれば、診療報酬に反映すべきであると考えられる。

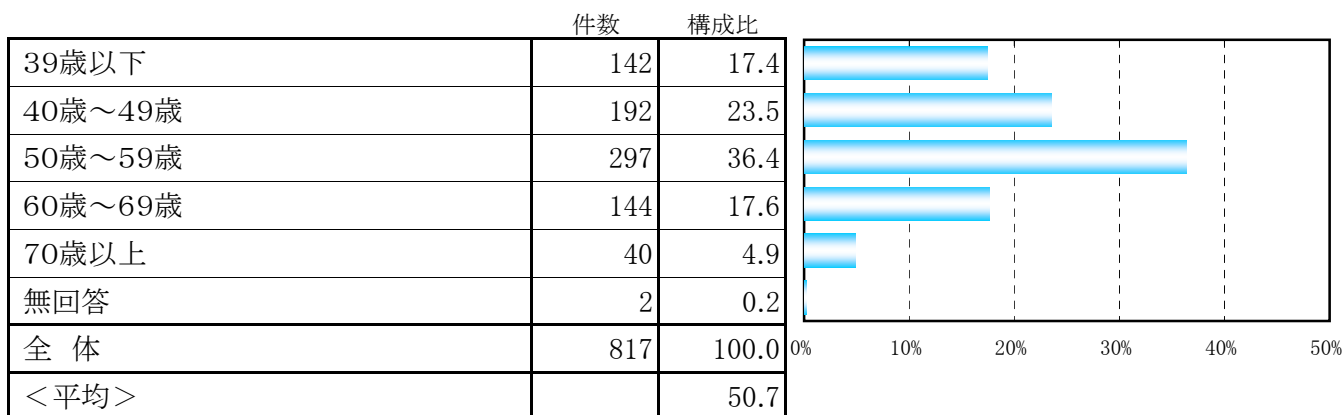
本来、歯科補綴物製作にあたっては製作責任者であり、チーム医療の一員である歯科技工士が、対象となる患者を観ることは大きな意義があると考えられる。たとえば、審美修復治療における色調、形態、排列の観察、有床義歯における顔貌や表情の観察は歯科技工操作上必須であり、完成した歯科補綴装置に対する患者の反応を観察することは今後の歯科技工において大きな参考点となる。また歯科医師とのコミュニケーションによって、製作する歯科技工物に対する治療の方向性により深い共通認識をもつことができ、専門職としての意見交換によって一層具現化された補綴物の製作に繋がる。さらに患者に対しても口腔内に装着される補綴装置の製作者が明確になり、安全で安心な歯科医療に繋がる。

歯科補綴物製作前、試適時などの製作中、さらには完成した補綴装置が口腔内に装着される時の立ち会いは、それぞれ大きな意義があり、患者に良質な補綴装置を適用するためには必要なことであると考えられる。

これからデジタルデンティストリーを主体とする歯科医療が実践され、多くの計測機器によるデータ化、歯科補綴物製作過程における機械化、グローバルなインターネットによる情報伝達など多くの面で、円滑な歯科医療に進化していくことが予想されるが、高品質高精度な歯科補綴物を最終的に完成する歯科技工士は、製作責任者として製作過程のすべてにおいてオペレーションしなければならない。また、補綴装置を装着するのは人である患者であることから、製作対象者である患者の人となりを観察しなければならない。患者情報はデジタル化され、歯科医師から伝達されるが、生涯口腔内に装着する補綴物の製作にあたって人と人、製作する歯科技工士と患者とのフェイス トゥ フェイスのコミュニケーションは極めて重要であると考えられる。

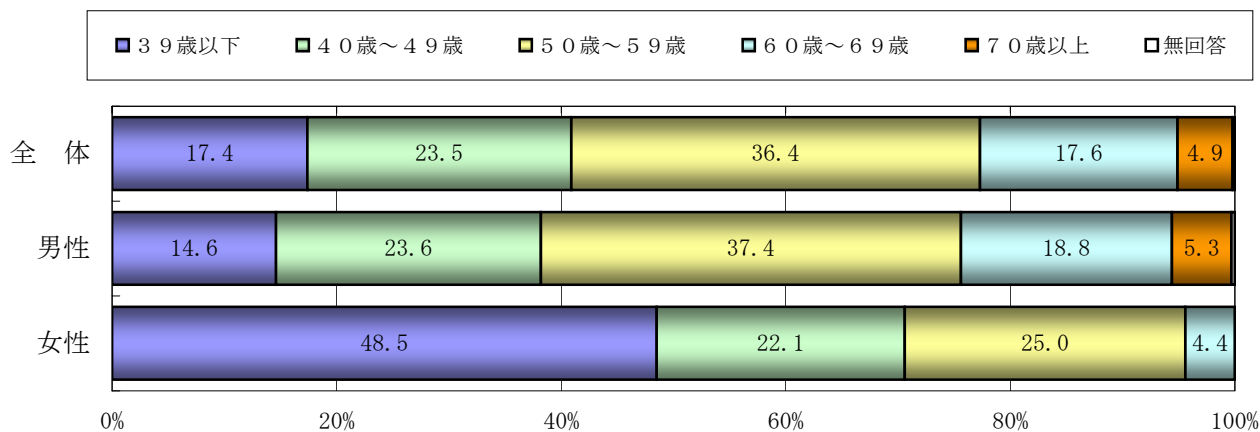
IV. 集計結果報告書 ①歯科技工士調査編

1. 年 齢



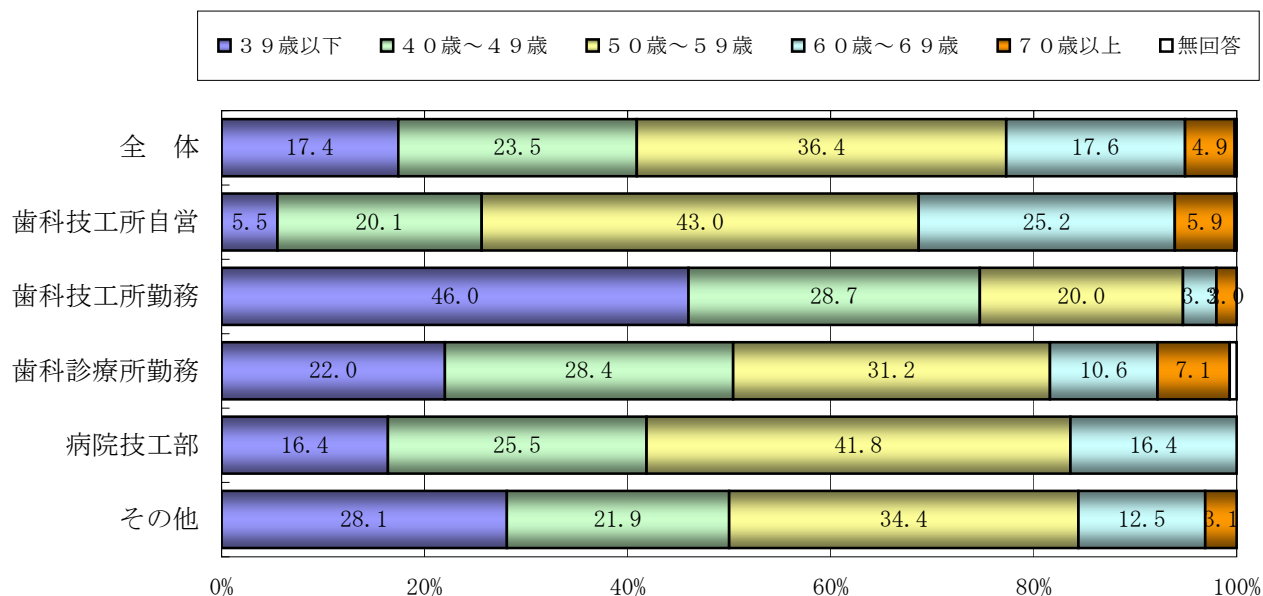
全体で見ると「50歳～59歳」297件(36.4%)、「40歳～49歳」192件(23.5%)、「60歳～69歳」144件(17.6%)の順となっており、平均年齢は〔50.7歳〕となっている。

グラフ① 〔2. 性別〕×〔1. 年齢〕



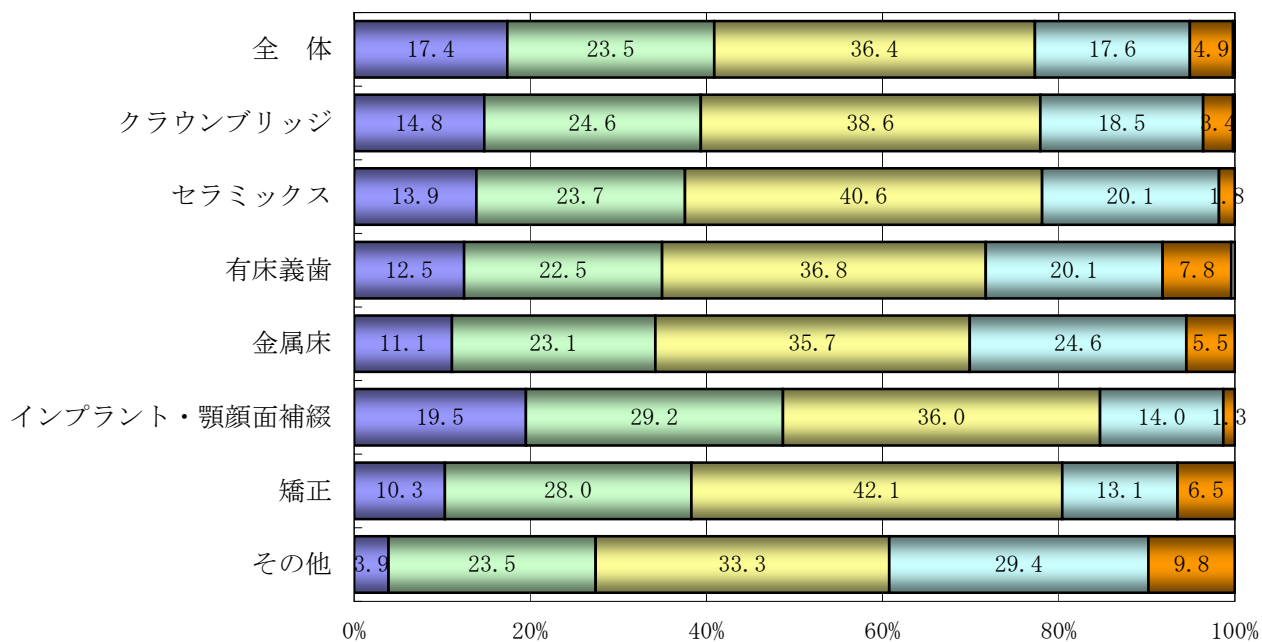
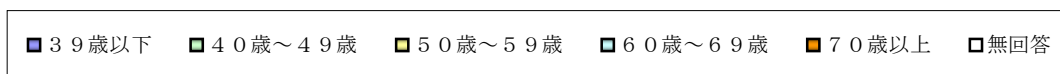
※別添P.8〔表1〕①を参照

グラフ② 〔3. 就業形態〕×〔1. 年齢〕



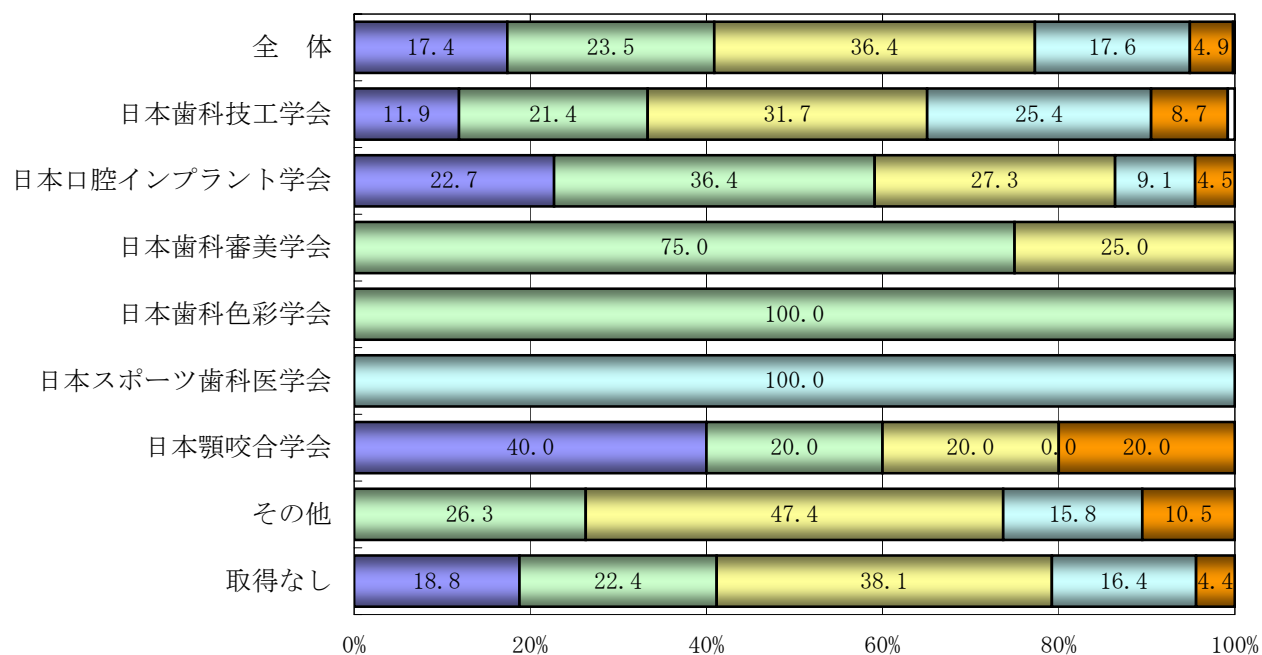
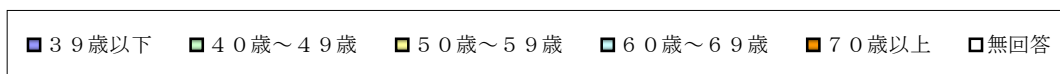
※別添P.8〔表1〕②を参照

グラフ③ 〔6. 専門分野〕 × 〔1. 年齢〕



※別添P.8〔表1〕③を参照

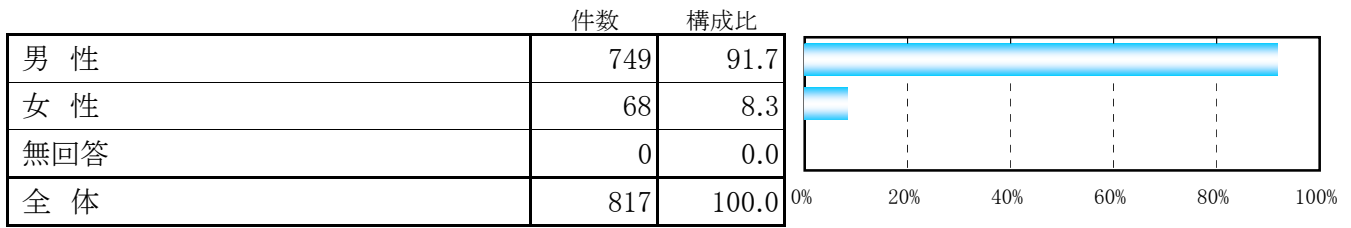
グラフ④ 〔7. 専門士・認定士〕 × 〔1. 年齢〕



(注)日本歯科色彩学会と日本スポーツ歯科医学会は、母数が1件のため100%となっている。

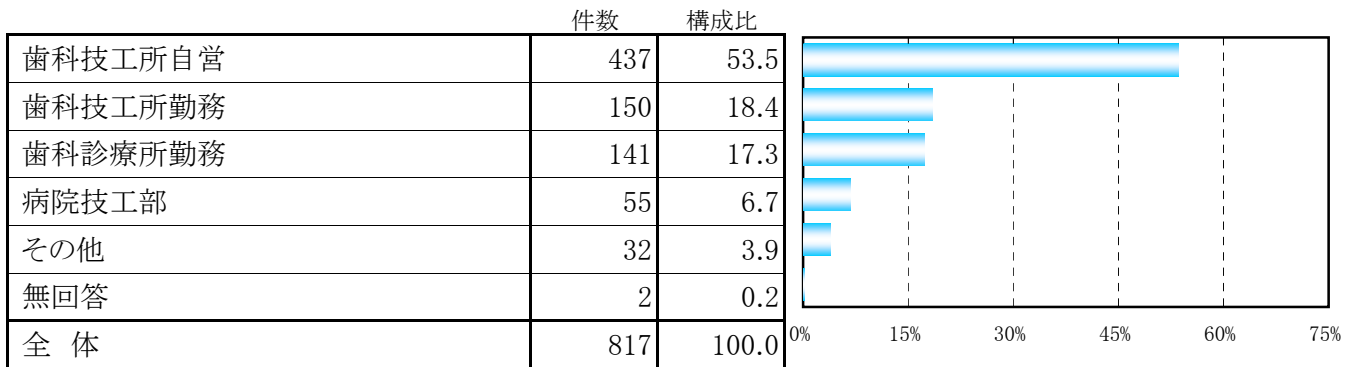
※別添P.8〔表1〕④を参照

2. 性別



全体でみると「男性」749件(91.7%)、「女性」68件(8.3%)となっている。ほぼ9割が男性である。

3. 就業形態

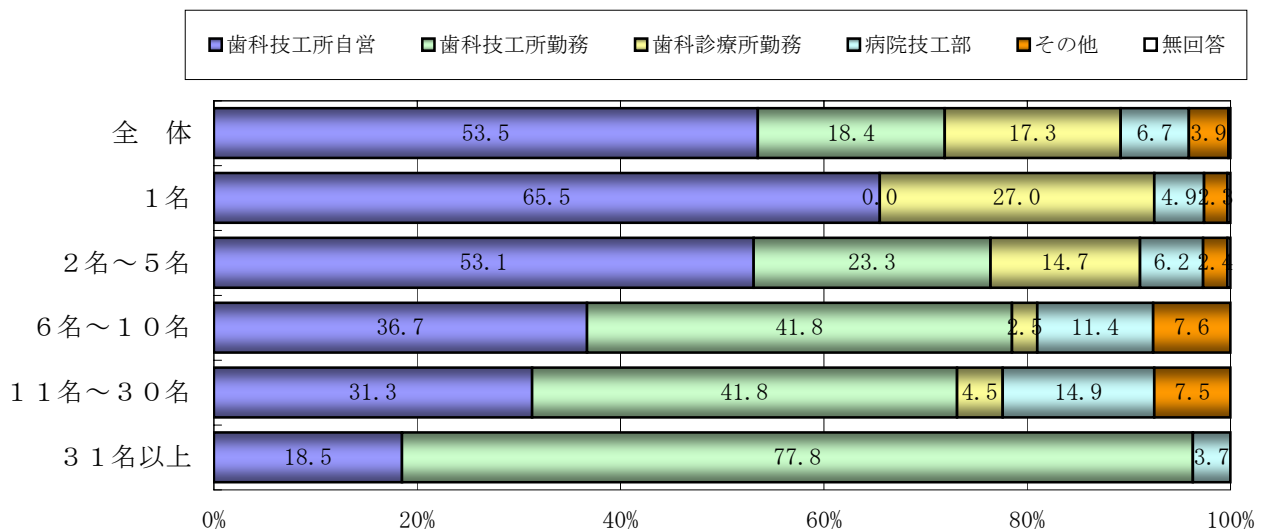


全体でみると「歯科技工所自営」437件(53.5%)、「歯科技工所勤務」150件(18.4%)、「歯科診療所勤務」141件(17.3%)の順となっている。

●「その他」の代表的な記述内容 ※（ ）内は類似回答数

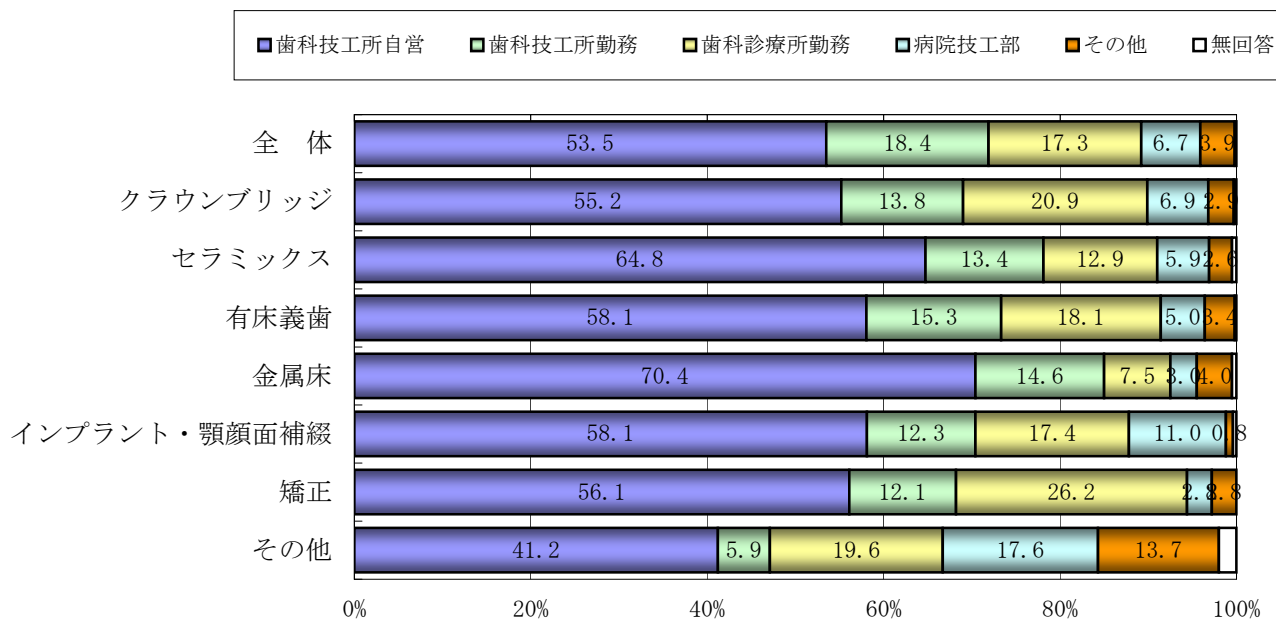
- ・歯科技工士養成所・教員 (10) ・歯科企業 (8) ・休職・退職 (4) ・大学施設勤務 (3) ・営業 (2) ・自営 (1) ・診療所技工室 (1) ・その他 (1)

グラフ① 〔5. 就業規模（歯科技工士数）〕 × 〔3. 就業形態〕



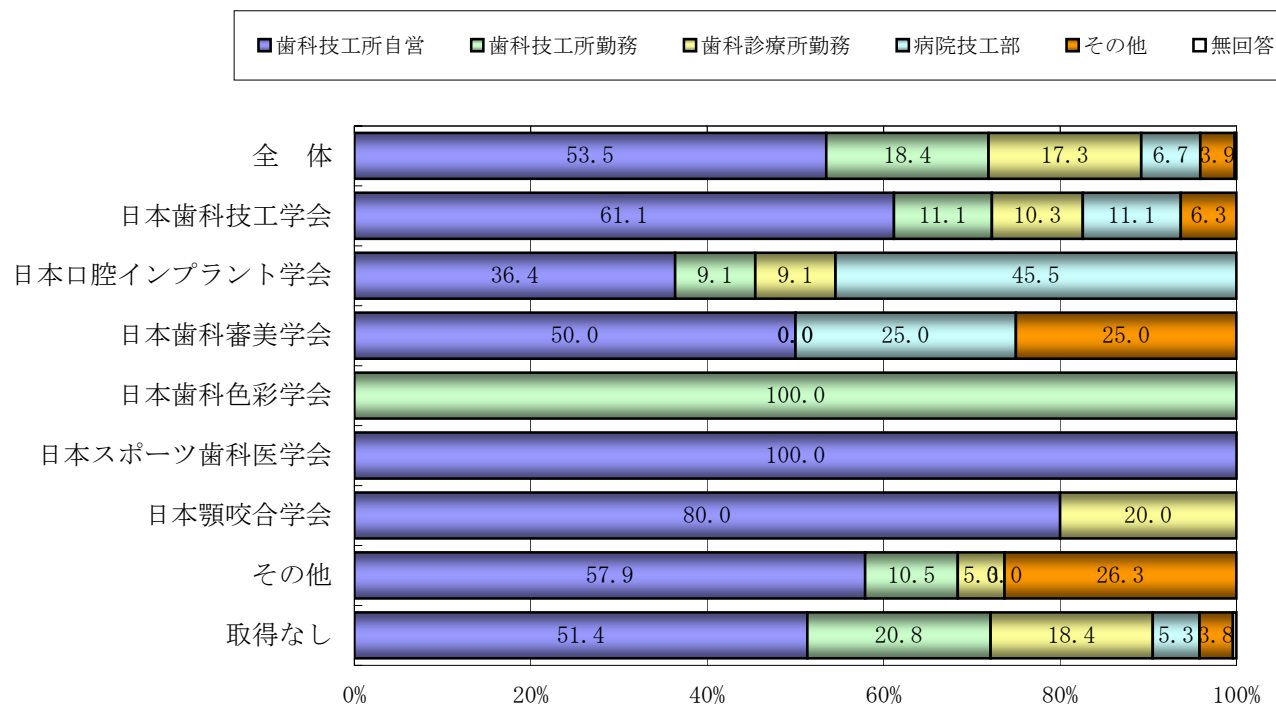
※別添P.11〔表4〕①を参照

グラフ② 〔6. 専門分野〕 × 〔3. 就業形態〕



※別添P.11〔表4〕②を参照

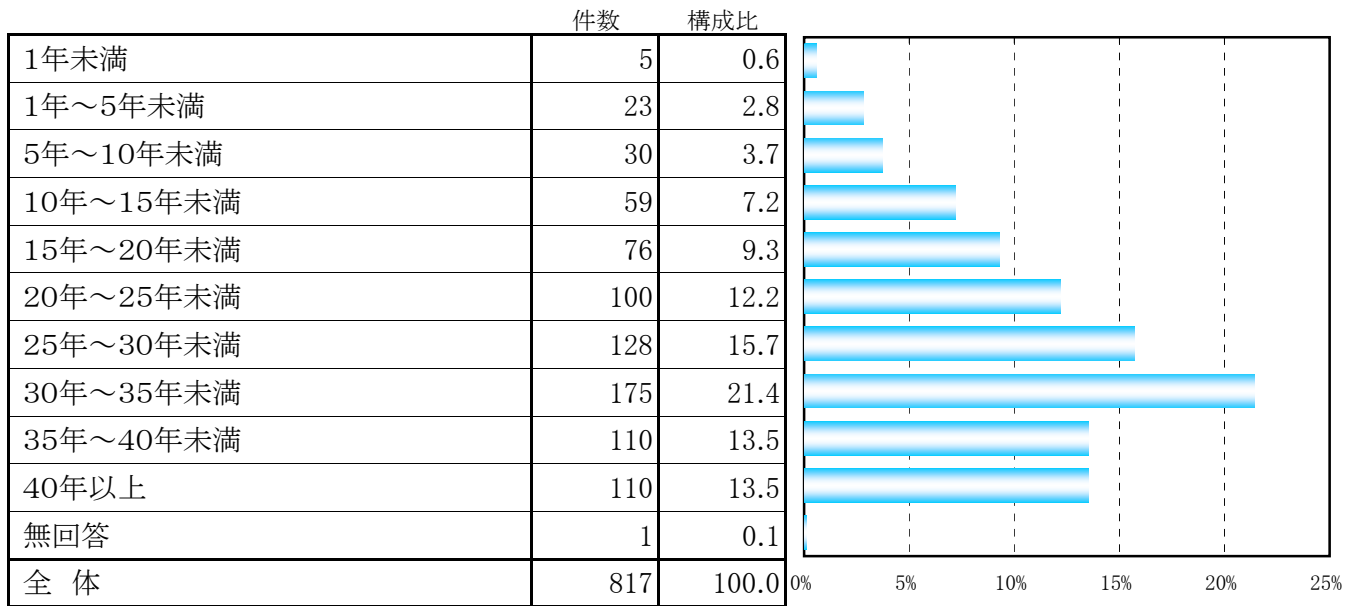
グラフ③ 〔7. 専門士・認定士〕 × 〔3. 就業形態〕



(注)日本歯科色彩学会と日本スポーツ歯科医学会は、母数が1件のため100%となっている。

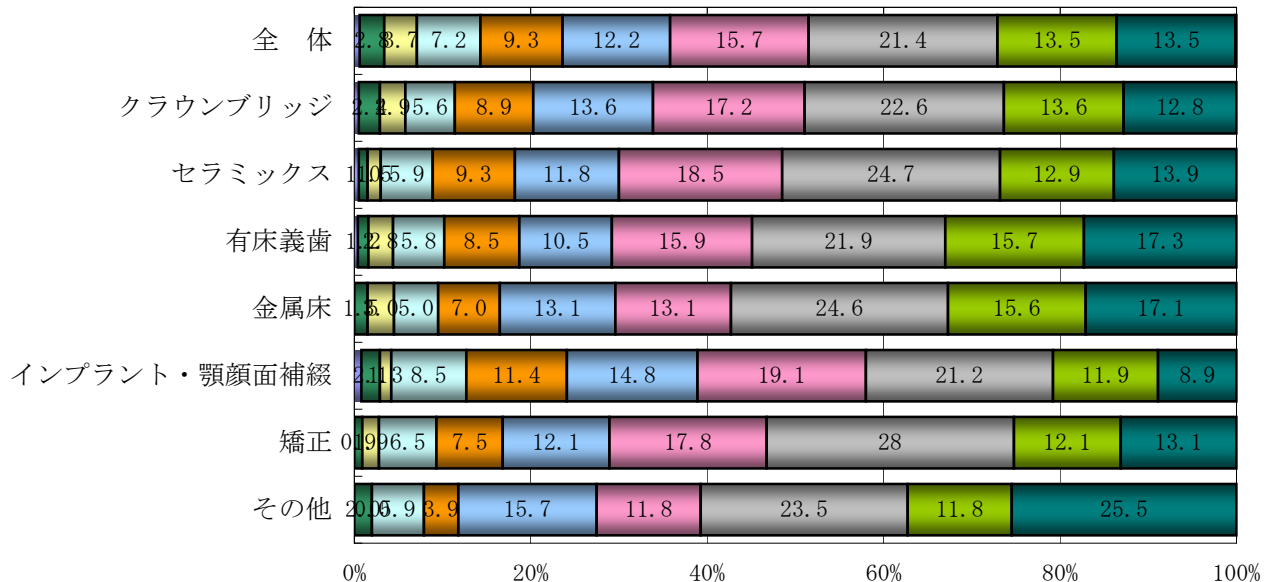
※別添P.11〔表4〕③を参照

4. 経験年数



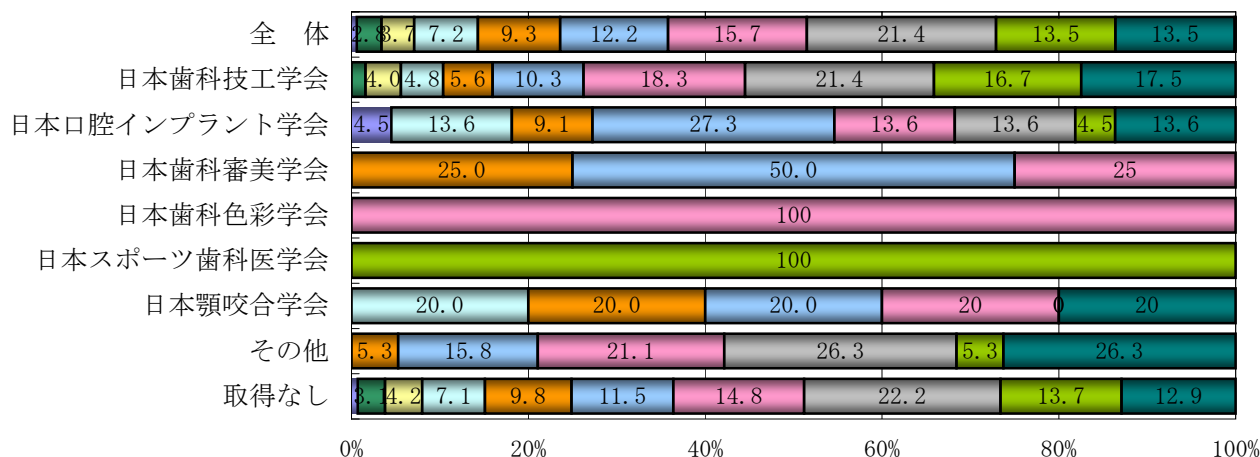
全体で見ると「30年～35年未満」175件(21.4%)、「25年～30年未満」128件(15.7%)、「35年～40年未満」110件(13.5%)、「40年以上」110件(13.5%)の順となっている。

グラフ① [6. 専門分野] × [4. 経験年数]



※別添P.12〔表5〕①を参照

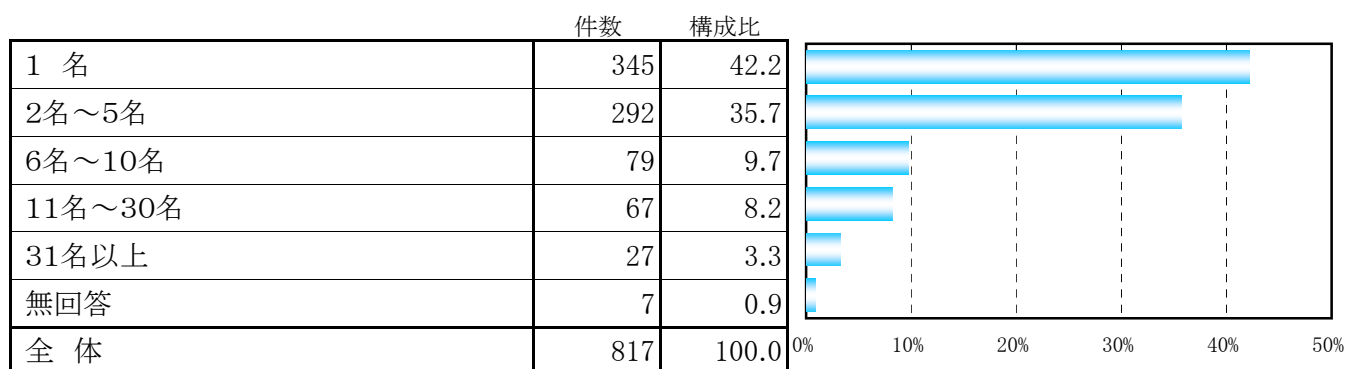
グラフ② 〔7. 専門士・認定士〕 × 〔4. 経験年数〕



(注)日本歯科色彩学会と日本スポーツ歯科医学会は、母数が1件のため100%となっている。

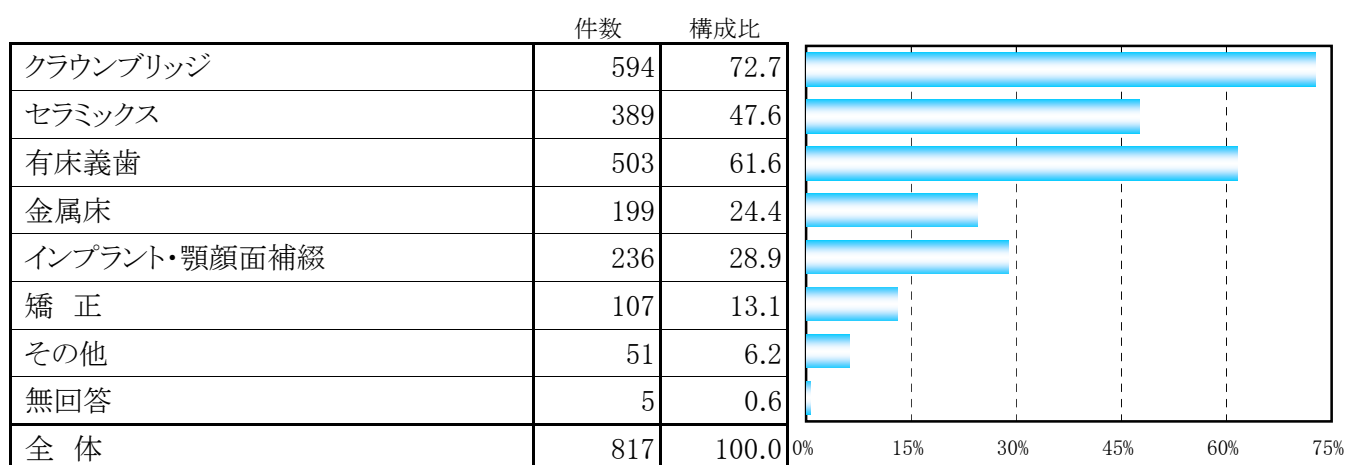
※別添P.12〔表5〕②を参照

5. 就業規模（歯科技工士数）



全体で見ると「1名」345件(42.2%)、「2名～5名」292件(35.7%)、「6名～10名」79件(9.7%)の順となっている。

6. 専門分野〔複数回答〕

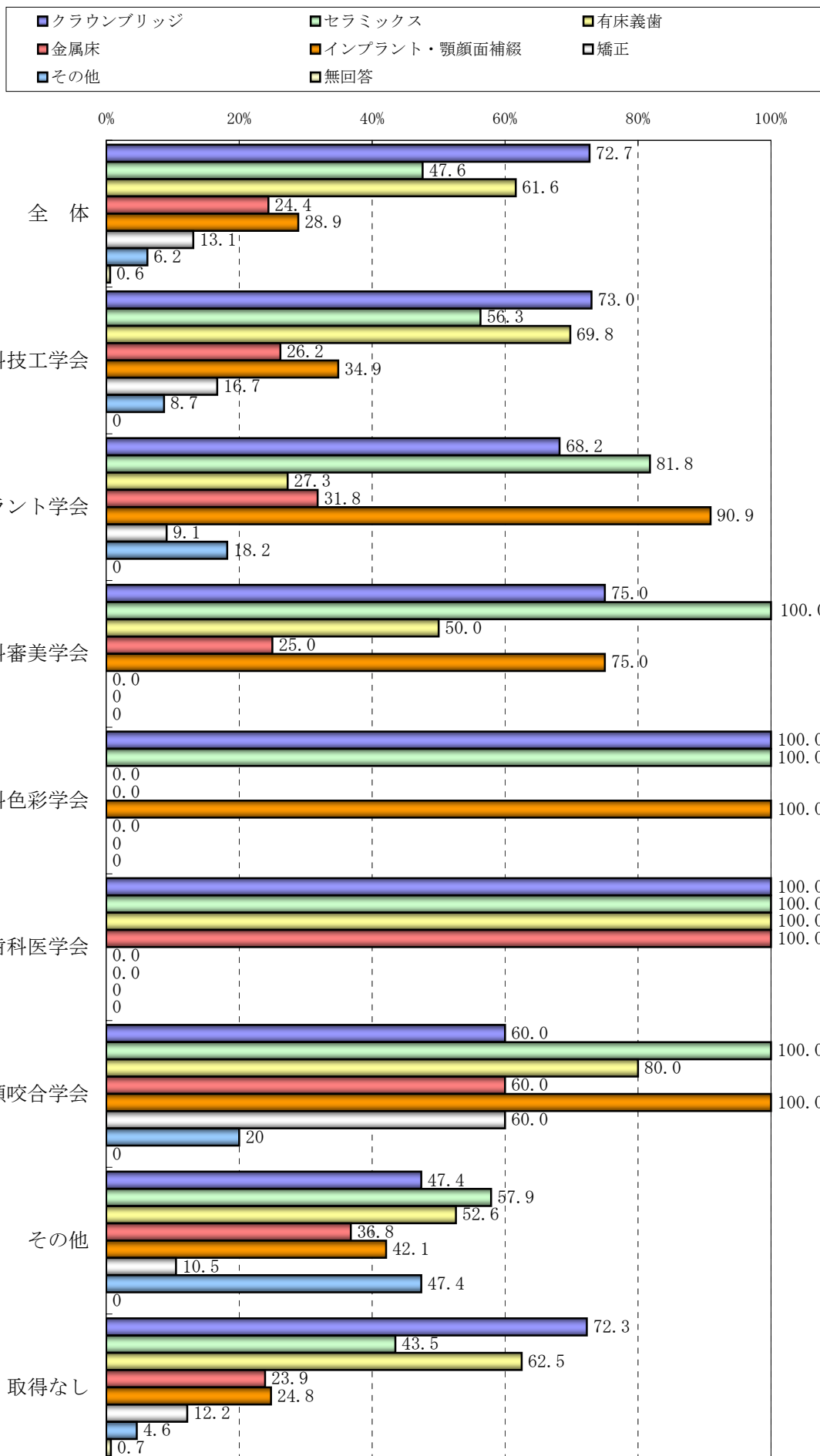


全体で見ると「クラウンブリッジ」594件(72.7%)、「有床義歯」503件(61.6%)、「セラミックス」389件(47.6%)の順となっている。

●「その他」の代表的な記述内容 ※（）内は類似回答数

- ・義歯関係 (9) ・全般 (6) ・口腔外科 (6) ・咬合機能 (4) ・スプリント・マウスガード (4)
- ・CAD/CAM (3) ・歯冠修復 (3) ・営業 (3) ・その他 (6)

グラフ① 〔7. 専門士・認定士〕 × 〔6. 専門分野〕



(注)日本歯科色彩学会と日本スポーツ歯科医学会は、母数が1件のため100%となっている。

※別添P.13〔表6〕を参照

7. 専門士・認定士

	件数	構成比
日本歯科技工学会	126	15.4
日本口腔インプラント学会	22	2.7
日本歯科審美学会	4	0.5
日本歯科色彩学会	1	0.1
日本スポーツ歯科医学会	1	0.1
日本顎咬合学会	5	0.6
その他	19	2.3
取得なし	549	67.2
無回答	109	13.3
全体	817	100.0

全体で見ると「取得なし」175件(21.4%)、「日本歯科技工学会」128件(15.7%)、「35年～40年未満」110件(13.5%)、「40年以上」110件(13.5%)の順となっている。

●「その他」の代表的な記述内容 ※（）内は類似回答数

- ・インプラント分野(4) ・イボクラBPS(3) ・日本歯科技工士認定講師(3)
- ・口腔外科技工士(2) ・不要(1) ・その他(6)

問1. 歯科診療所等のチェアサイドでの患者への立ち会い経験

	件数	構成比
ある	705	86.3
ない	111	13.6
無回答	1	0.1
全体	817	100.0

全体で見ると「ある」705件(86.3%)、「ない」111件(13.6%)の順となっている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.14〔表7〕を参照

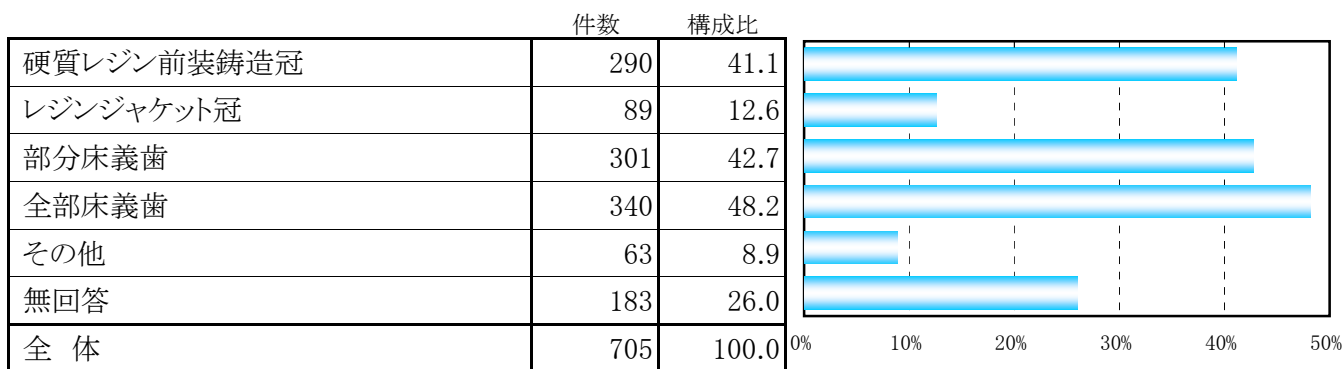
問2. 1ヵ月に立ち会いを行う頻度

	件数	構成比
1回	234	33.2
2回	101	14.3
3回	68	9.6
4回	34	4.8
5回以上	219	31.1
無回答	49	7.0
全体	705	100.0

全体で見ると「1回」234件(33.2%)、「5回以上」219件(31.1%)、「2回」101件(14.3%)の順となっている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.15〔表8〕を参照

問3. 立ち会いを行う場合の補てつ装置の種類／保険診療



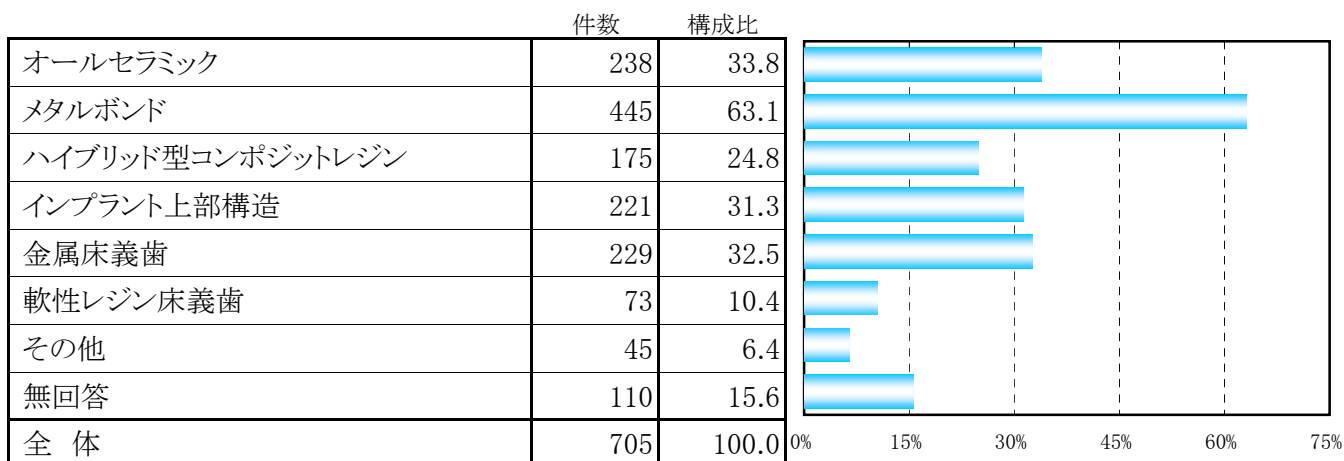
全体で見ると「全部床義歯」340件(48.2%)、「部分床義歯」301件(42.7%)、「硬質レジン前装铸造冠」290件(41.1%)の順となっている。

●「その他」の代表的な記述内容 ※（ ）内は類似回答数

- ・顎顔面・口腔外科関連 (14) ・セラミックスクラウン関係 (7) ・歯冠修復 (6)
- ・インプラント (5) ・義歯関係 (5) ・色彩関係 (3) ・全般 (3) ・その他 (5)

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.16〔表9〕を参照

問3. 立ち会いを行う場合の補てつ装置の種類／自費診療



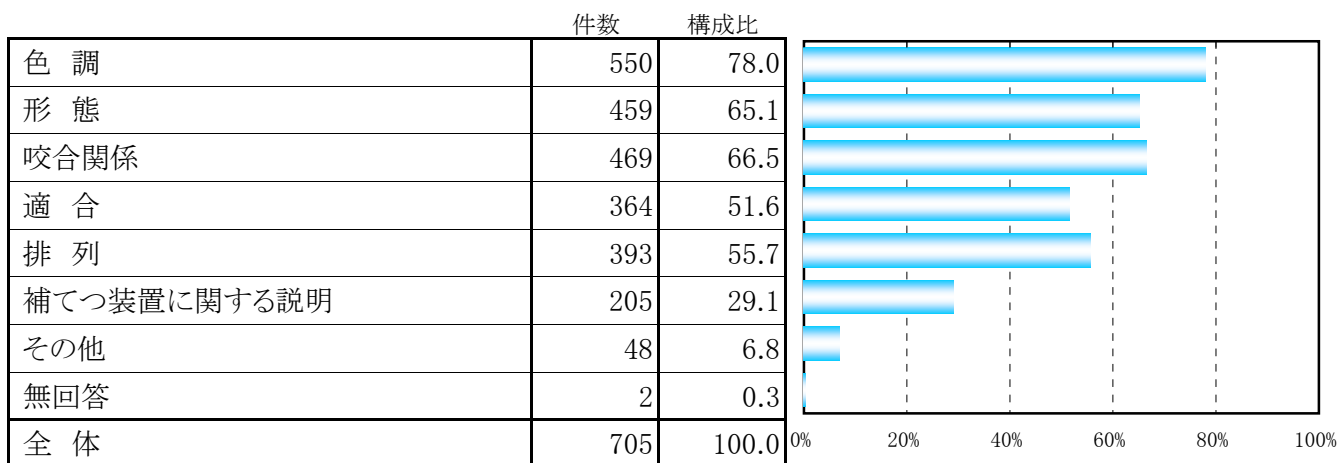
全体で見ると「メタルボンド」445件(63.1%)、「オールセラミック」238件(33.8%)、「金属床義歯」229件(32.5%)の順となっている。

●「その他」の代表的な記述内容 ※（ ）内は類似回答数

- ・顎顔面・口腔外科関連 (6) ・ノンクラスプデンチャー (6) ・義歯関係 (5) ・歯冠修復 (4)
- ・全般 (4) ・矯正 (4) ・咬合関連 (3) ・シェイド、テイキングが主。(3) ・スプリント (3)
- ・その他 (5)

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.17〔表10〕を参照

問4. 立ち会いをする場合の目的



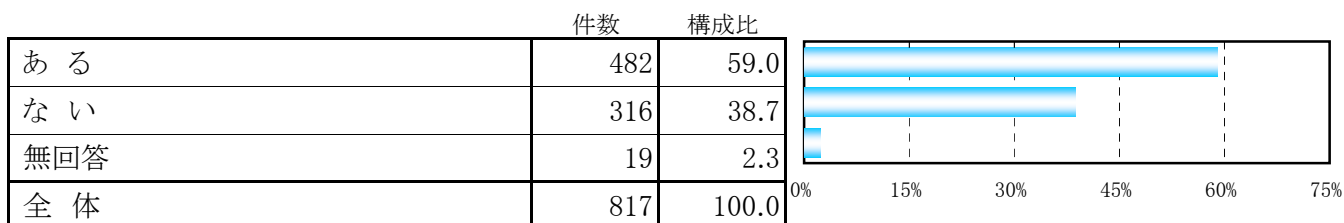
全体で見ると「色調」550件(78.0%)、「咬合関係」469件(66.5%)、「形態」459件(65.1%)の順となっている。

●「その他」の代表的な記述内容 ※（）内は類似回答数

- ・患者の情報（11）
- ・歯科医師との連携（5）
- ・設計に関して（5）
- ・患者の要望（5）
- ・患者への説明（3）
- ・その他（10）

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.18〔表11〕を参照

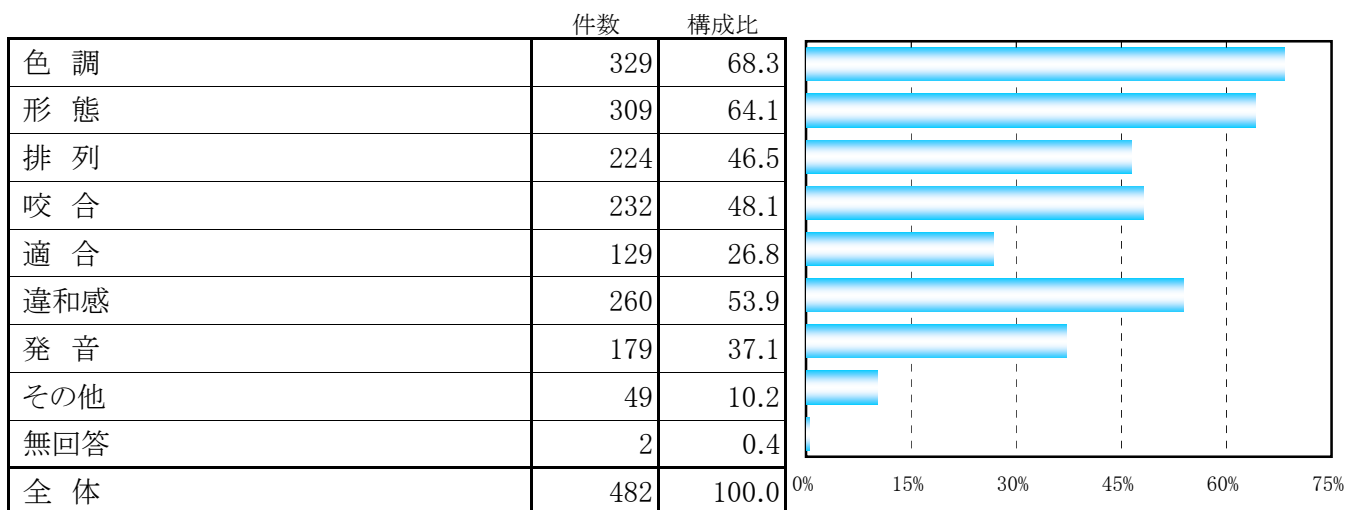
問5. 補てつ装置に関する患者さんからの相談



全体で見ると「ある」482件(59.0%)、「ない」316件(38.7%)の順となっている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.19〔表12〕を参照

問6. 患者さんから受けた相談内容



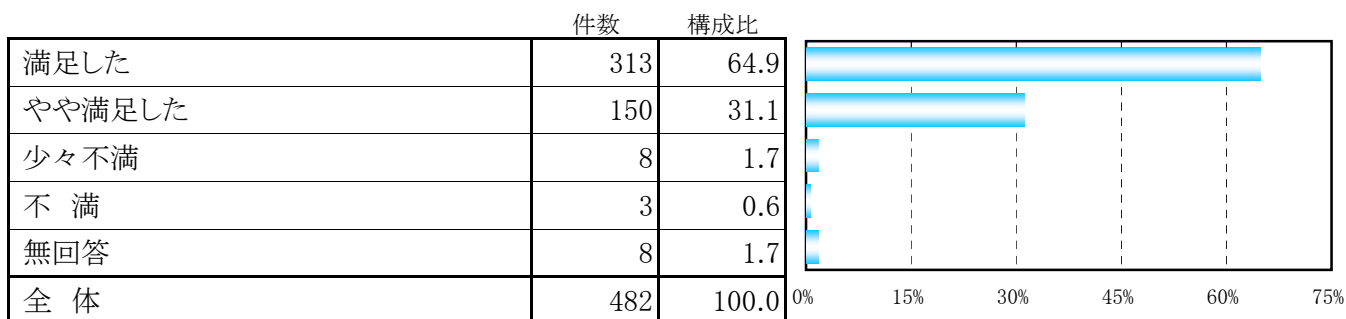
全体で見ると「色調」329件(68.3%)、「形態」309件(64.1%)、「違和感」260件(53.9%)の順となっている。

●「その他」の代表的な記述内容 ※（）内は類似回答数

- ・価格 (9) ・補綴方法の種類 (7) ・強度、耐久性 (6) ・材料について (6)
- ・歯科医師・歯科医院 (3) ・保険診療と自費診療に関して (2) ・その他 (10)

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.20〔表13〕を参照

問7. 患者さんの相談の結果への満足度



全体で見ると「満足した」175件(21.4%)、「やや満足した」128件(15.7%)の順となっている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.21〔表14〕を参照

問 8. 補てつ装置について行った説明

	件数	構成比
使用する材料	333	73.2
作成の方法	147	32.3
使用上の注意	156	34.3
他の材料との違い	313	68.8
補てつ物の取り扱い	159	34.9
補てつ物の料金	64	14.1
補てつ物の構造	181	39.8
その他	24	5.3
無回答	5	1.1
全 体	455	100.0

全体で見ると「使用する材料」333件(73.2%)、「他の材料との違い」313件(68.8%)、「補てつ物の構造」181件(39.8%)の順となっている。

●「その他」の代表的な記述内容 ※（）内は類似回答数

- ・装置に関して (5)
- ・審美性 (4)
- ・耐久年数など (4)
- ・その他 (8)

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.22〔表15〕を参照

問 9. 患者さんは説明したことを理解されましたか

	件数	構成比
理解できた	150	33.0
ほぼ理解できた	284	62.4
理解できていない	12	2.6
無回答	9	2.0
全 体	455	100.0

全体で見ると「ほぼ理解できた」284件(62.4%)、「理解できた」150件(33.0%)、「理解できていない」12件(2.6%)の順となっている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.23〔表16〕を参照

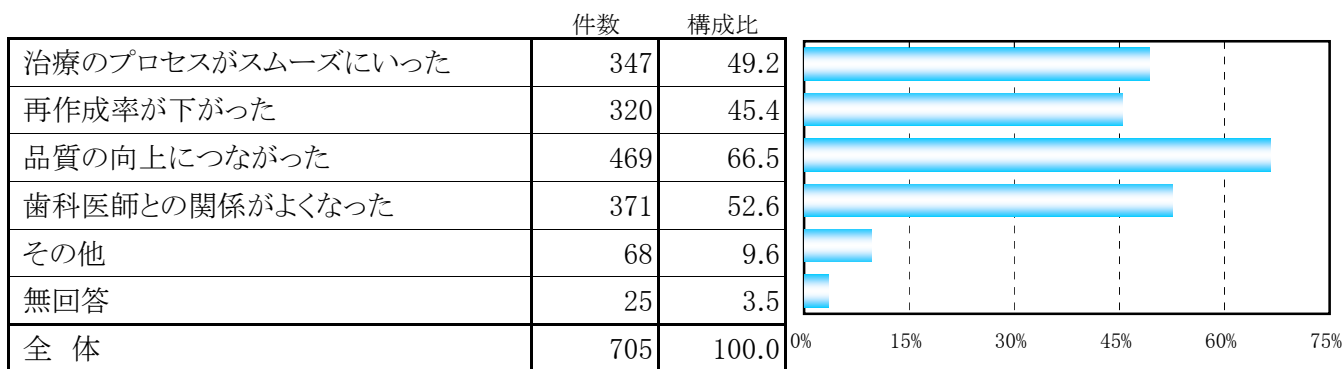
問10. 最終補てつ装置の品質の向上につながったか

	件数	構成比
つながった	656	93.0
つながらなかった	20	2.8
無回答	29	4.1
全 体	705	100.0

全体で見ると「つながった」656件(93.0%)、「つながらなかった」20件(2.8%)の順となっている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.24〔表17〕を参照

問11. 当該患者の補てつ装置を作成する際の効果



全体で見ると「品質の向上につながった」469件(66.5%)、「歯科医師との関係がよかった」371件(52.6%)、「治療のプロセスがスムーズにいった」347件(49.2%)の順となっている。

●「その他」の代表的な記述内容 ※（ ）内は類似回答数

- ・安心感・信頼関係 (31) ・作業時間の短縮・技術の向上 (16) ・患者情報 (4) ・特になし (2)
- ・その他 (14)

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.25〔表18〕を参照

問12. 立ち会いを行った場合の費用の請求について



全体で見ると「請求しない」594件(84.3%)、「請求する」92件(13.0%)の順となっている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.26〔表19〕を参照

問12-1. 平均請求金額〔全体〕

	件数	構成比
3000円未満	7	7.6
3000円～4000円未満	21	22.8
4000円～6000円未満	30	32.6
6000円～8000円未満	16	17.4
8000円以上	15	16.3
無回答	3	3.3
全 体	92	100.0
<平均>		6062.0

全体でみると「4000円～6000円未満」30件(32.6%)、「3000円～4000円未満」21件(22.8%)、「6000円～8000円未満」16件(17.4%)の順となっており、平均請求金額は〔6,062円〕となっている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.27〔表20〕を参照

問12-2. 1時間あたりの平均請求金額

	件数	構成比
3000円未満	4	17.4
3000円～4000円未満	2	8.7
4000円～6000円未満	8	34.8
6000円～8000円未満	4	17.4
8000円以上	4	17.4
無回答	1	4.3
全 体	23	100.0
<平均>		5523.0

全体でみると「4000円～6000円未満」8件(34.8%)、「3000円未満」4件(17.4%)、「6000円～8000円未満」4件(17.4%)、「8000円以上」4件(17.4%)の順となっており、平均請求金額は〔5,523円〕となっている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.28〔表21〕を参照

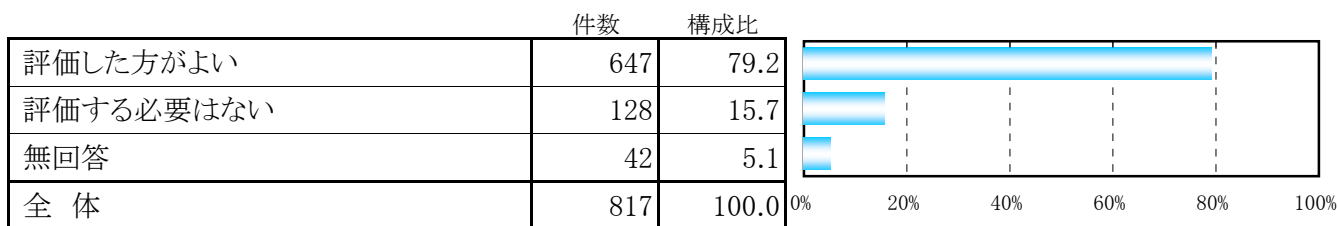
問12-3. 1回あたりの平均請求金額

	件数	構成比
3000円未満	3	7.1
3000円～4000円未満	11	26.2
4000円～6000円未満	14	33.3
6000円～8000円未満	7	16.7
8000円以上	6	14.3
無回答	1	2.4
全 体	42	100.0
<平均>		5585.0

全体でみると「4000円～6000円未満」14件(33.3%)、「3000円～4000円未満」11件(26.2%)、「6000円～8000円未満」7件(16.7%)の順となっており、平均請求金額は〔5,585円〕となっている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.29〔表22〕を参照

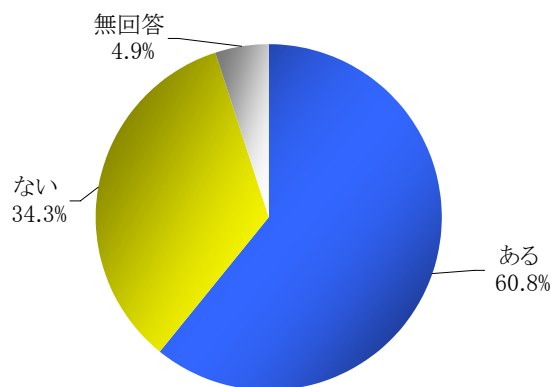
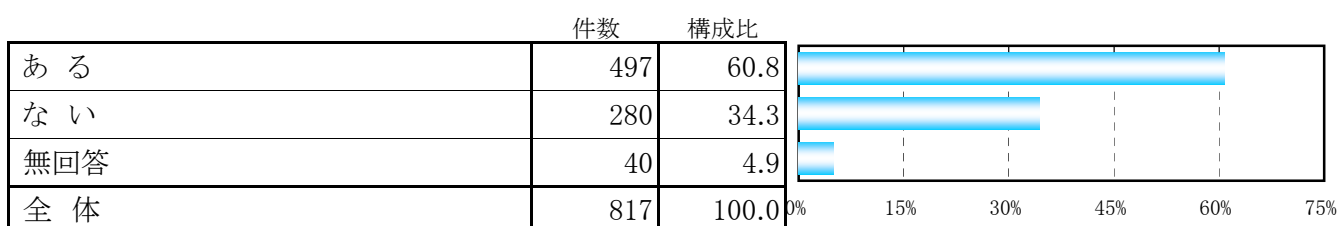
問13. 保険診療の際に立ち会い費用を診療報酬として加算評価することについて



全体で見ると「評価した方がよい」647件(79.2%)、「評価する必要はない」128件(15.7%)の順となっている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.30〔表23〕を参照

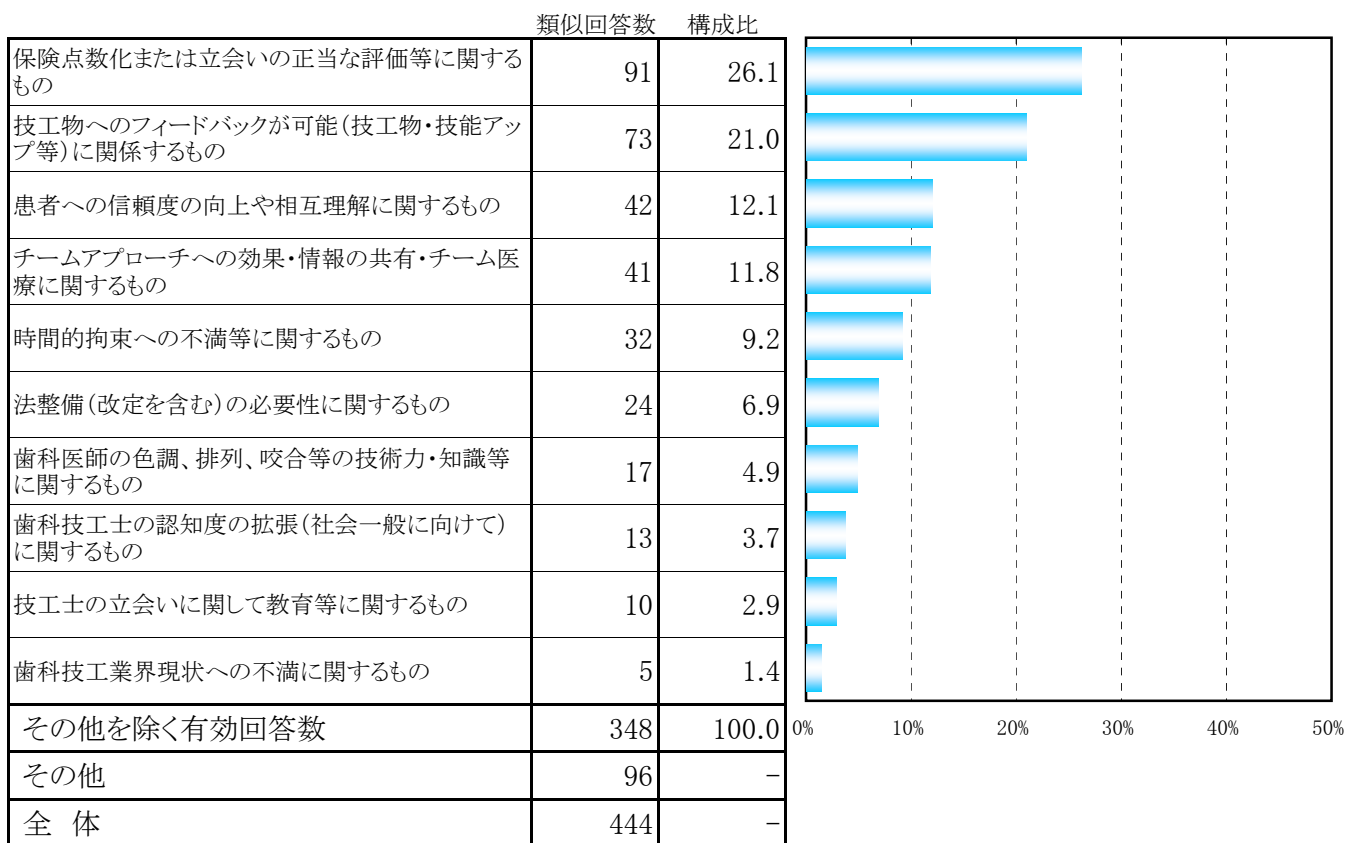
問14. 有床義歯修理を二日以内に行ったことがありますか



全体で見ると「ある」497件(60.8%)、「ない」280件(34.3%)の順となっている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.31〔表24〕を参照

問15. 歯科技工士の患者への立ち会いについての意見



歯科技工士の患者への立ち会いについての自由記述意見を上記の11種の系統に分類し、「その他」を除く有効回答数にて構成比を算出した。

その結果「保険点数化または立会いの正当な評価等に関するもの」91件(26.1%)、「技工物へのフィードバックが可能(技工物・技能アップ等)に関するもの」73件(21.0%)となり、全体の意見中のほぼ半数を占めていた。

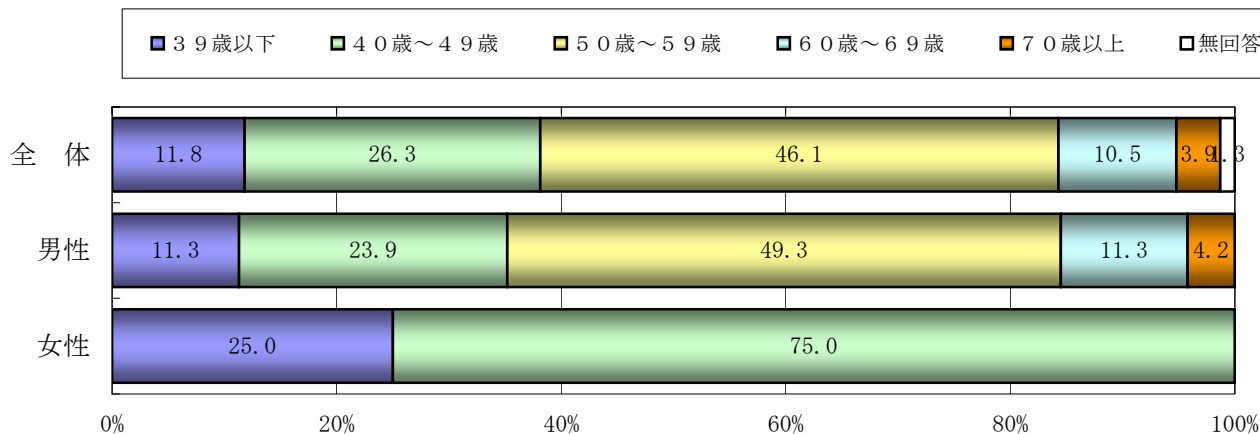
IV. 集計結果報告書 ② 歯科医師調査編

1. 年 齢

	件数	構成比
39歳以下	9	11.8
40歳～49歳	20	26.3
50歳～59歳	35	46.1
60歳～69歳	8	10.5
70歳以上	3	3.9
無回答	1	1.3
全 体	76	100.0
<平均>		51.2

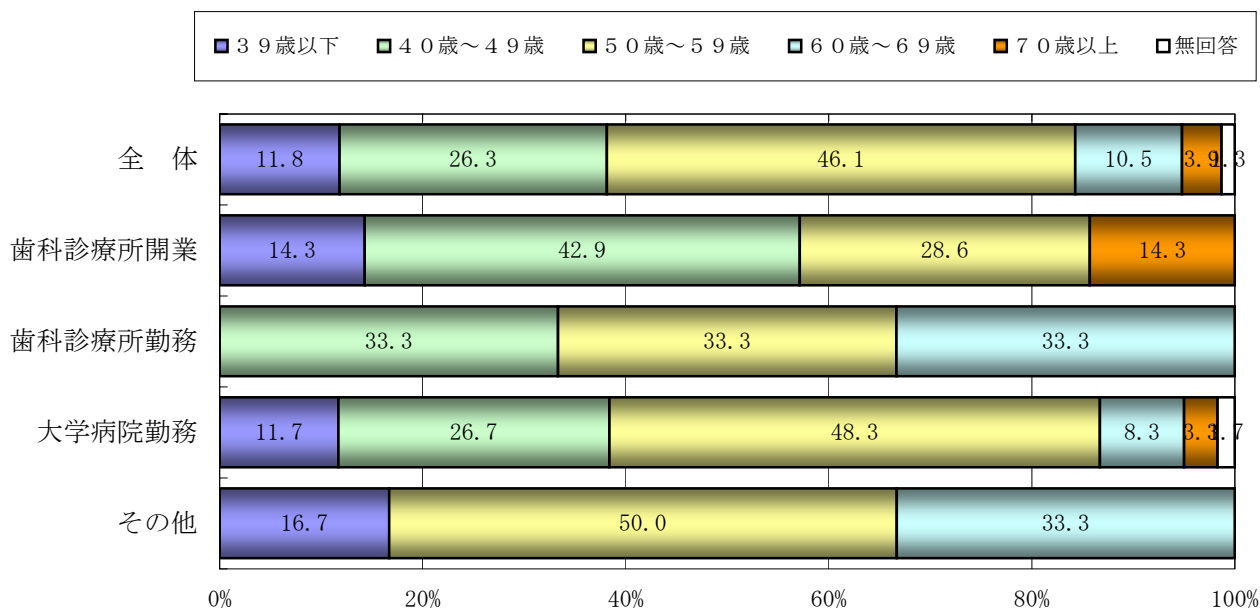
全体で見ると「50歳～59歳」35件(46.1%)、「40歳～49歳」20件(26.3%)、「39歳以下」9件(11.8%)の順となっており、平均年齢は〔51.2歳〕となっている。

グラフ① 〔2. 性別〕 × 〔1. 年齢〕



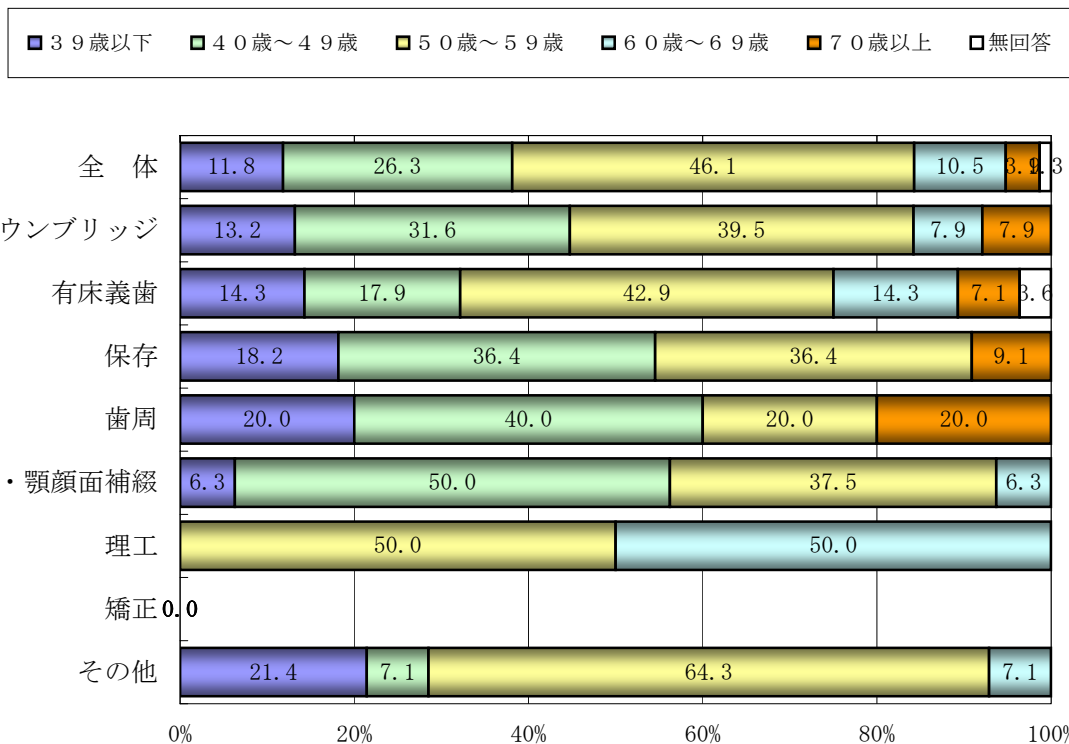
※別添P.32〔表1〕①を参照

グラフ② 〔3. 就業形態〕 × 〔1. 年齢〕



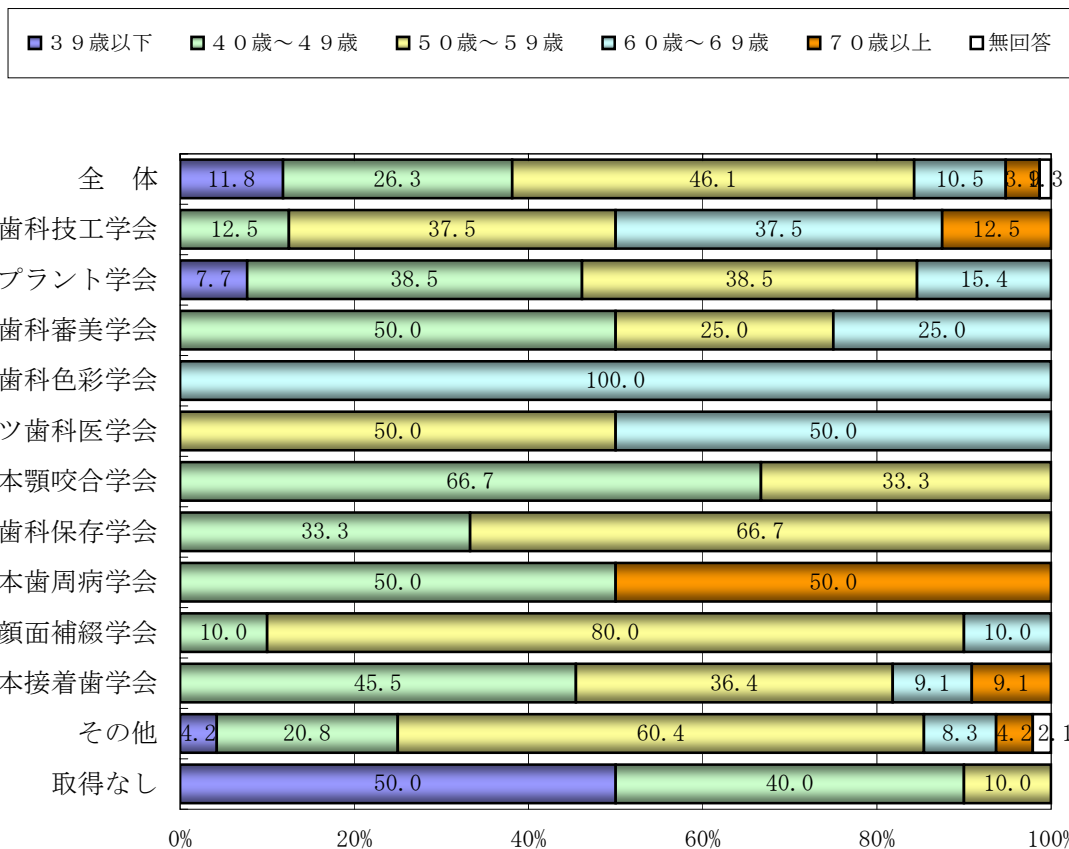
※別添P.32〔表1〕②を参照

グラフ③ 〔6. 専門分野〕 × 〔1. 年齢〕



※別添P.32〔表1〕③を参照

グラフ④ 〔7. 専門医・認定医〕 × 〔1. 年齢〕



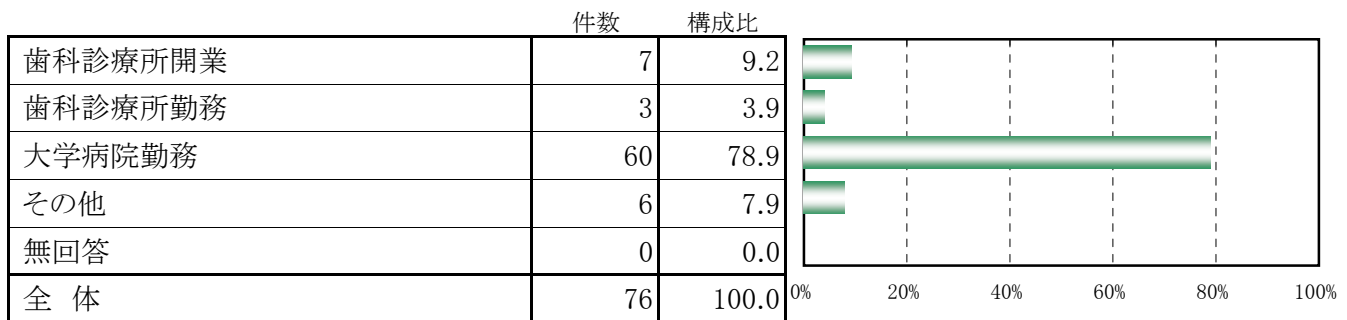
※別添P.32〔表1〕④を参照

2. 性別



全体で見ると「男性」71件(93.4%)、「女性」4件(5.3%)となっている。9割以上が男性である。

3. 就業形態

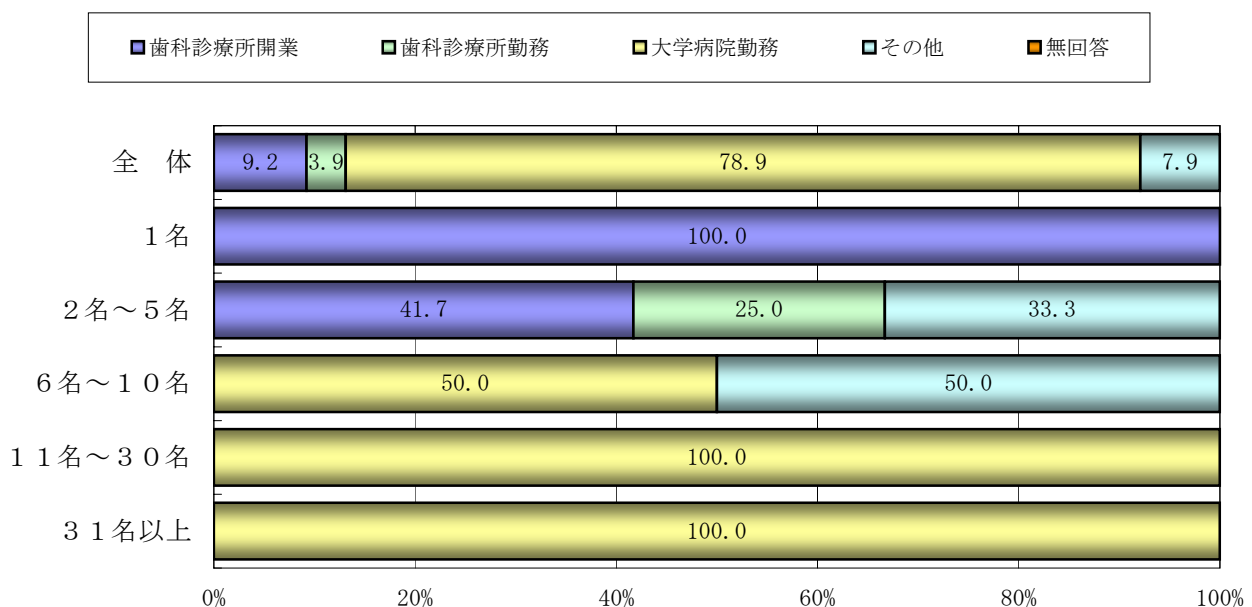


全体で見ると「大学病院勤務」60件(78.9%)、「歯科診療所開業」7件(9.2%)、「その他」6件(7.9%)の順となっている。

●「その他」の代表的な記述内容 ※（）内は類似回答数

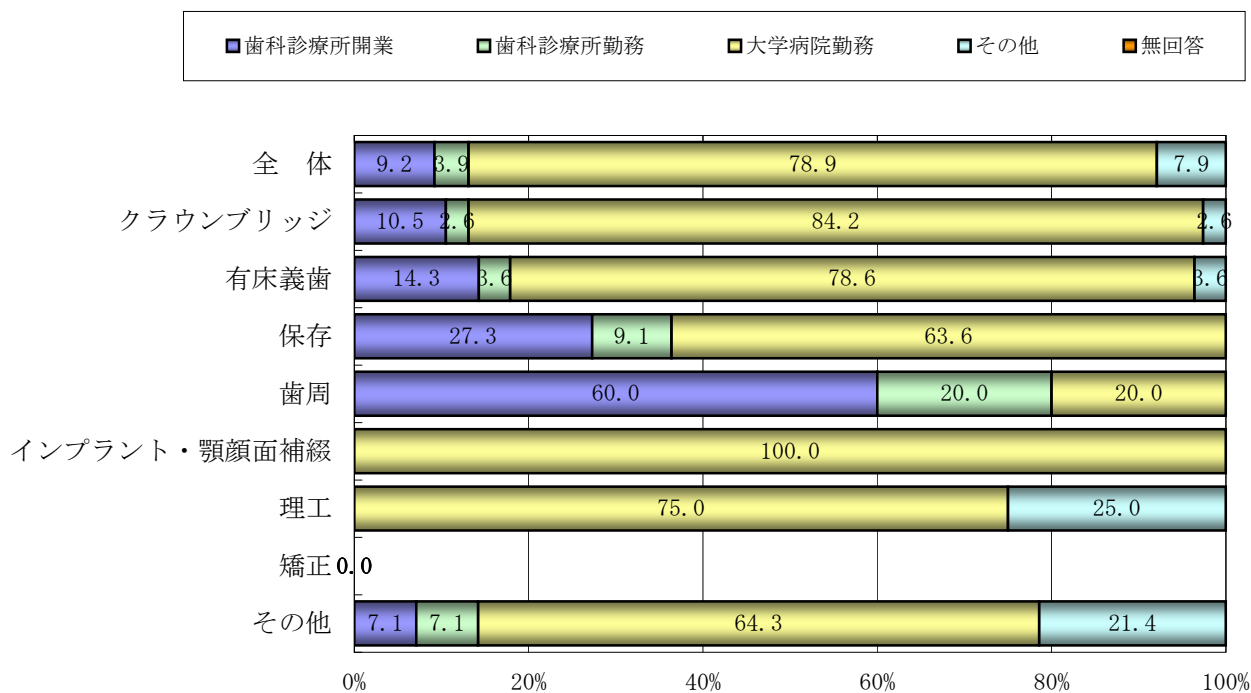
- ・専門学校附属歯科診療所（1）
- ・大学研究所勤務（1）
- ・病院（1）
- ・病院歯科口腔外科（1）
- ・病院歯科勤務（1）

グラフ① 〔5. 就業規模（歯科医師数）〕 × 〔3. 就業形態〕



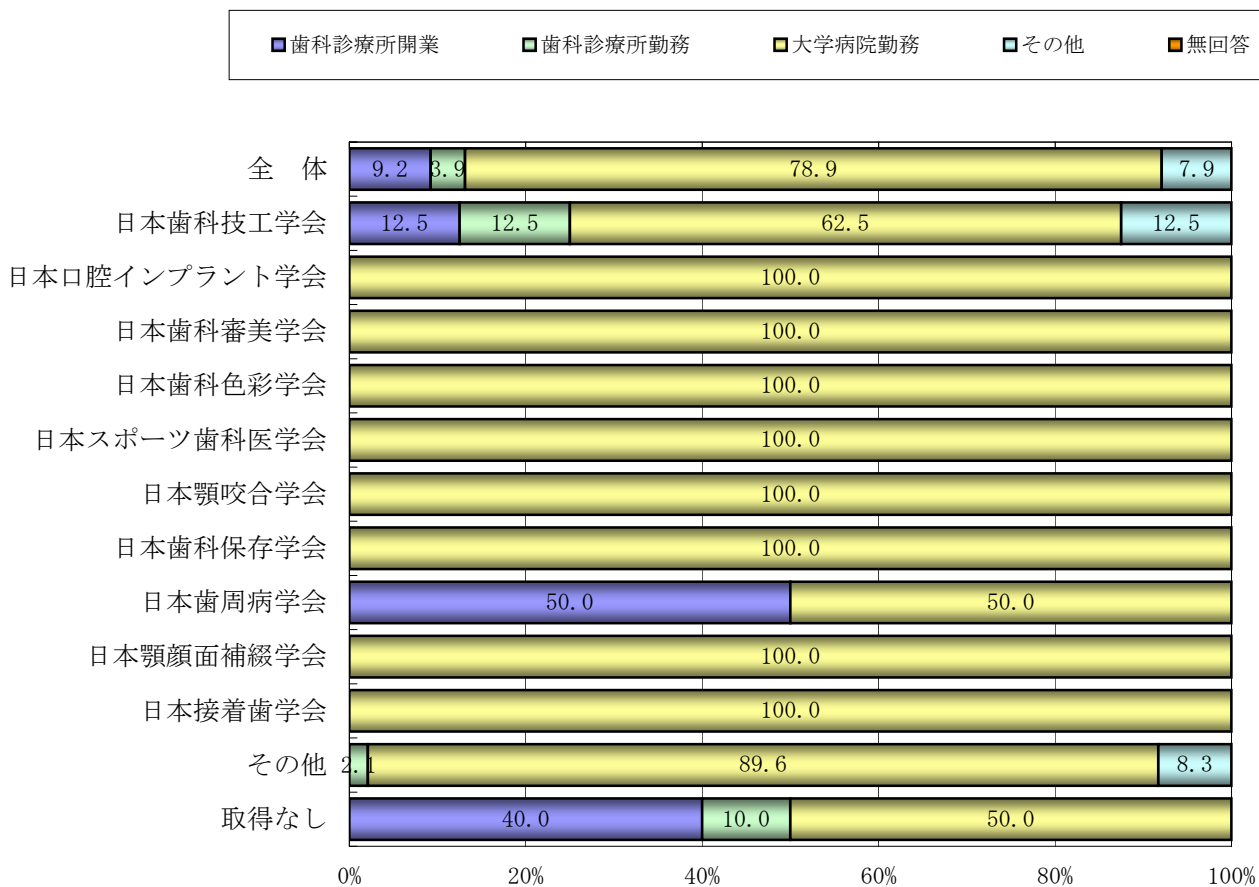
※別添P.35〔表4〕①を参照

グラフ② 〔6. 専門分野〕 × 〔3. 就業形態〕



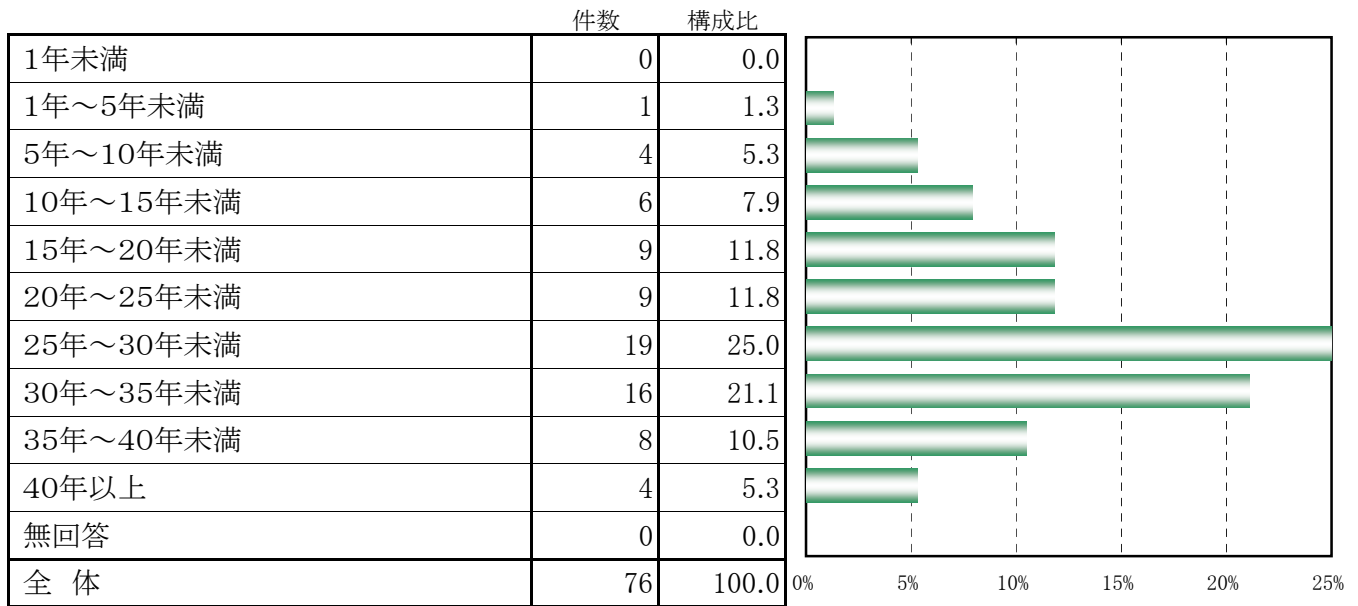
※別添P.35〔表4〕②を参照

グラフ③ 〔7. 専門医・認定医〕 × 〔3. 就業形態〕



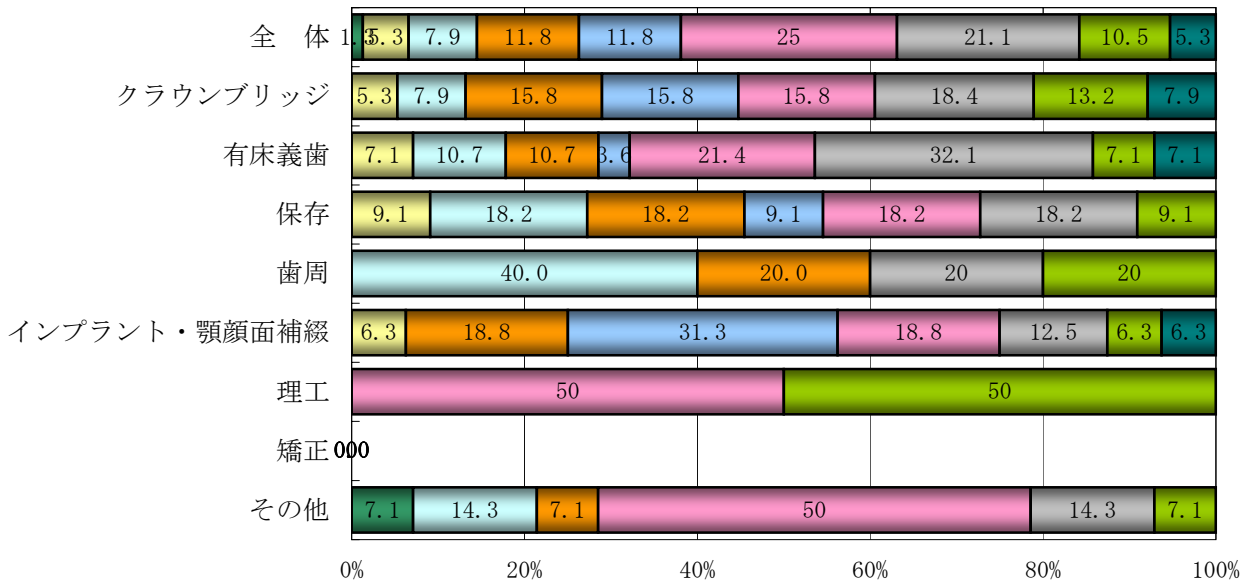
※別添P.35〔表4〕③を参照

4. 経験年数



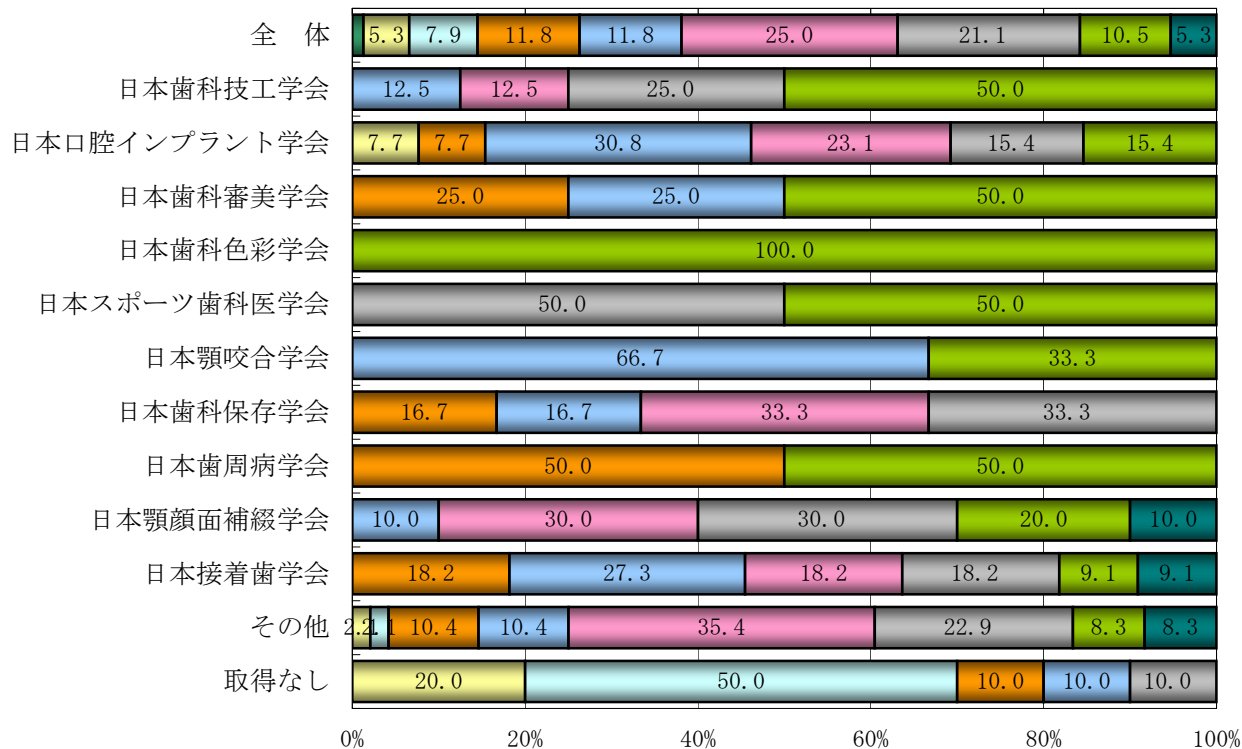
全体でみると「25年～30年未満」19件(25.0%)、「30年～35年未満」16件(21.1%)、「15年～20年未満」9件(11.8%)、「20年～25年未満」9件(11.8%)の順となっている。

グラフ① 〔6. 専門分野〕 × 〔4. 経験年数〕



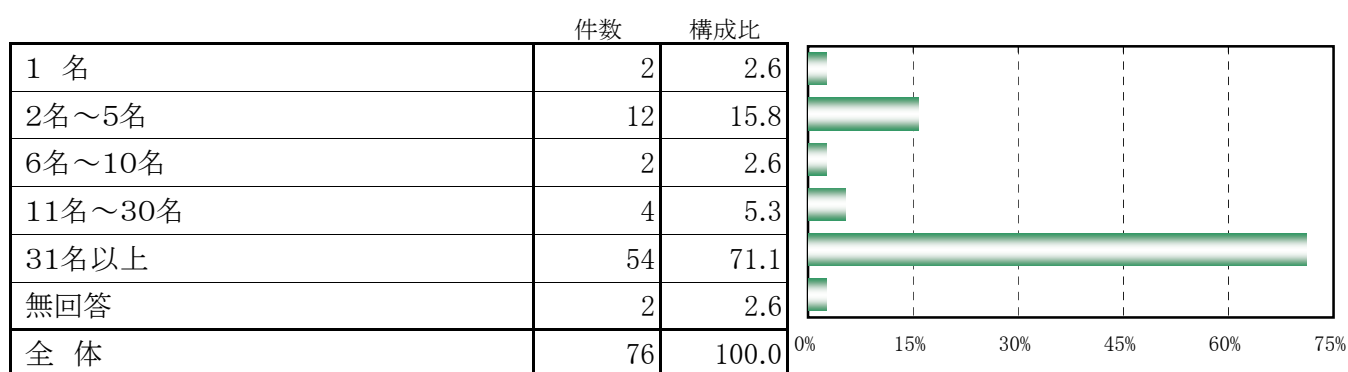
※別添P.36〔表5〕①を参照

グラフ② 〔7. 専門医・認定医〕 × 〔4. 経験年数〕



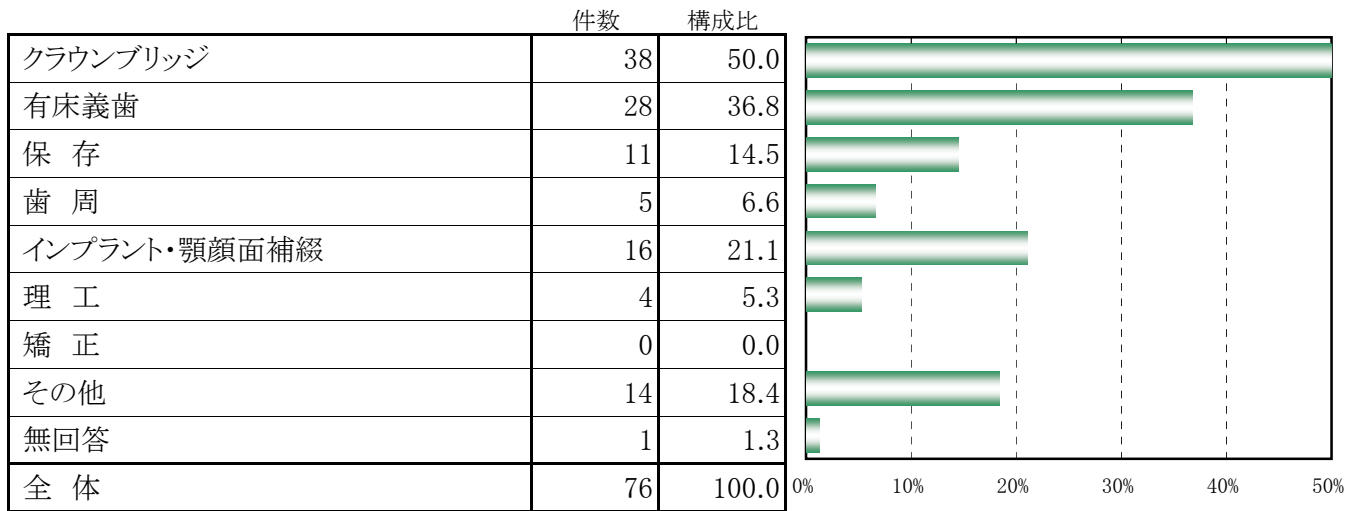
※別添P.36〔表5〕②を参照

5. 就業規模（歯科医師数）



全体で見ると「31名以上」54件(71.1%)、「2名～5名」12件(15.8%)、「11名～30名」4件(5.3%)の順となっている。

6. 専門分野

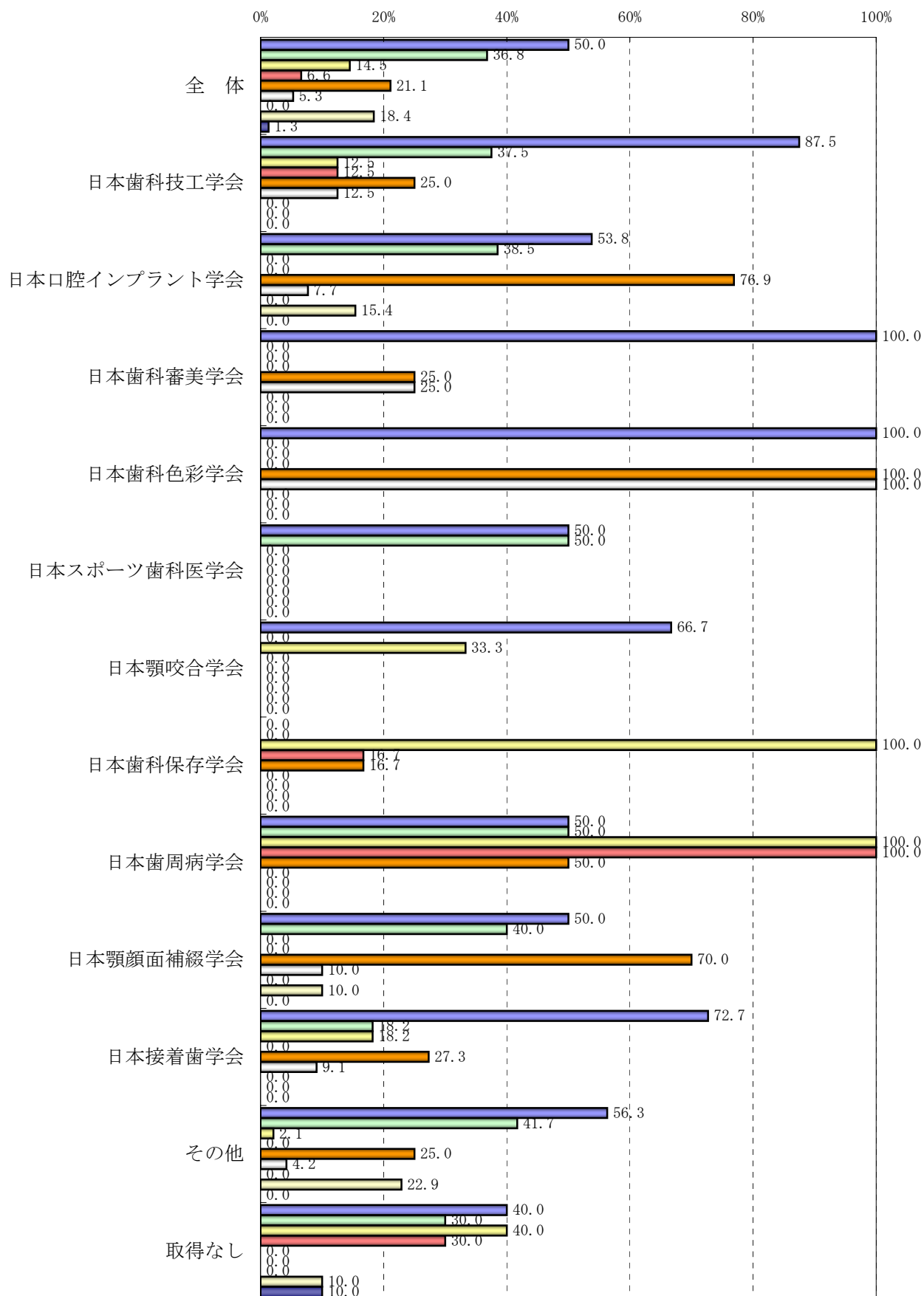
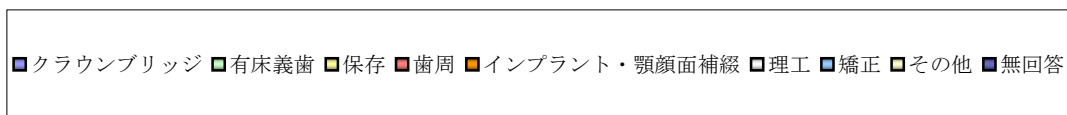


全体でみると「クラウンブリッジ」38件(50.0%)、「有床義歯」28件(36.8%)、「インプラント・顎顔面補綴」16件(21.1%)の順となっている。

●「その他」の代表的な記述内容 ※（）内は類似回答数

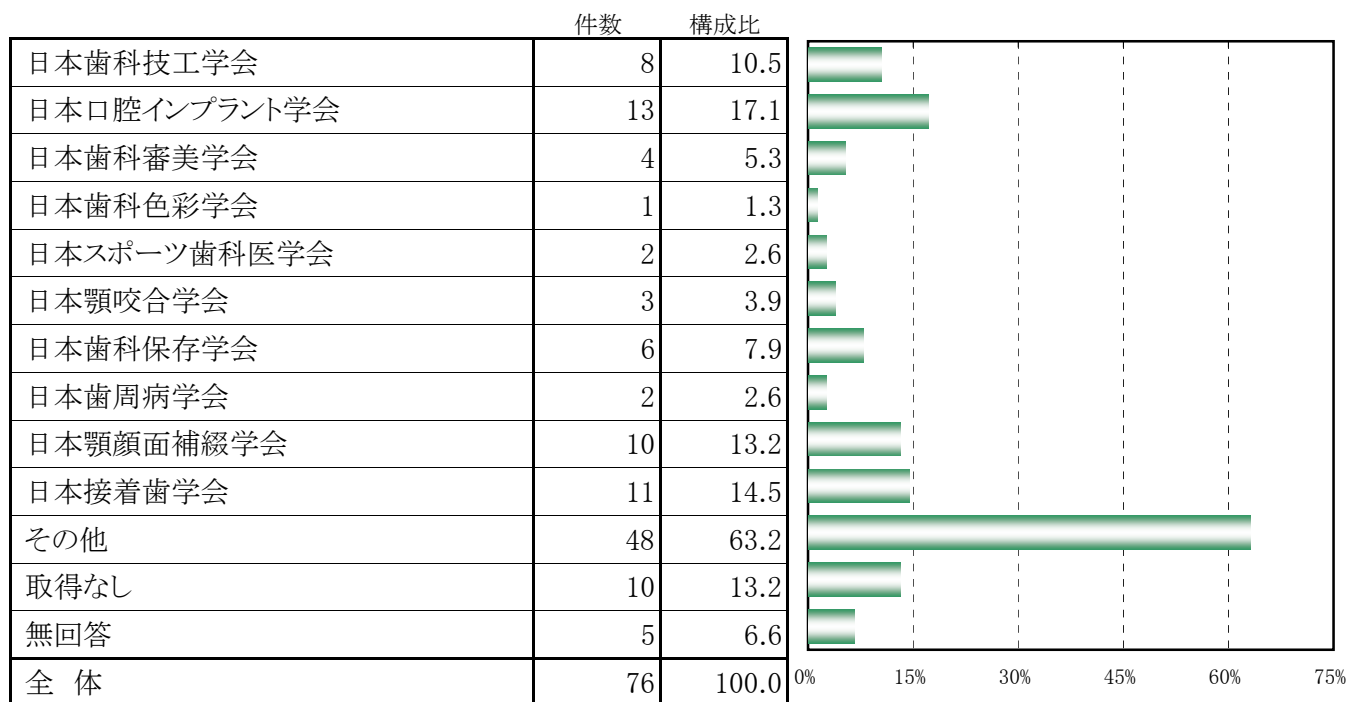
- ・口腔外科（10）
- ・心療歯科、障害者歯科、高齢者歯科（1）
- ・小児歯科（1）
- ・高齢者歯科（2）

グラフ① 〔7. 専門医・認定医〕 × 〔6. 専門分野〕



※別添P.37〔表6〕を参照

7. 専門医・認定医

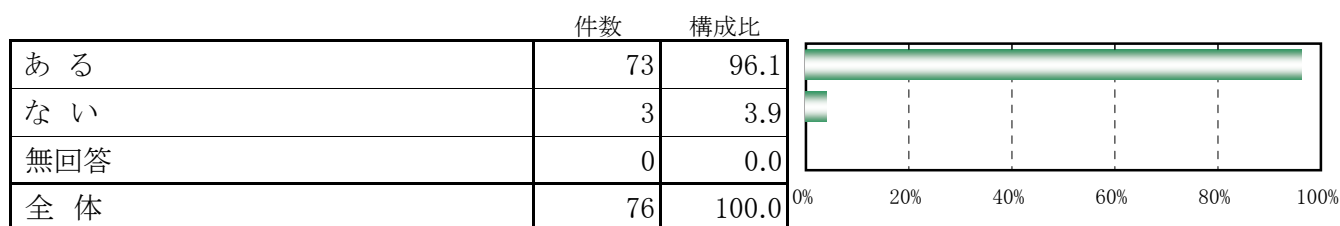


全体で見ると「その他」48件(63.2%)、「日本口腔インプラント学会」13件(17.1%)、「日本接着歯学会」11件(14.5%)の順となっている。

●「その他」の代表的な記述内容 ※（ ）内は類似回答数

- ・日本補綴歯科学会 (28) ・日本口腔外科学会 (7) ・老年 (5) ・日本顎関節学会 (4)
- ・日本顎顔面インプラント学会 (3) ・日本障害者学会 (3) ・日本レーザー歯学会 (1)
- ・日本小児歯科学会 (1) ・日本歯科心身医学会 (1) ・日本口腔顔面痛学会 (1)
- ・日本口腔リハビリテーション学会 (1) ・デンタルマテリアルズアドバイザー (1)
- ・日本口腔ケア (1) ・日本補綴歯科学会、専門医、指導医、 (1)
- ・日本老年歯科医学会、認定医 (1) ・日本がん治療認定医機構 (1)

問2. チェアサイドで歯科技工士に患者さんの立ち会いを依頼した経験



全体で見ると「ある」73件(96.1%)、「ない」3件(3.9%)の順となっている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.38〔表7〕を参照

問3. 歯科補てつ物作成にあたって歯科技工士の立ち会いは必要か

	件数	構成比
必要と思う	75	98.7
必要ではない	1	1.3
無回答	0	0.0
全体	76	100.0

全体で見ると「必要と思う」75件(98.7%)、「必要ではない」1件(1.3%)の順となっており、ほぼ10割が歯科技工士の立ち会いが必要と思っている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.39〔表8〕を参照

問4. 歯科技工士が患者さんに説明を行った方が良いこと

	件数	構成比
使用する材料	39	52.0
作成の方法	28	37.3
使用上の注意	15	20.0
他の材料との違い	24	32.0
補てつ物の取り扱い	17	22.7
補てつ物の料金	4	5.3
補てつ物の構造	26	34.7
その他	22	29.3
無回答	2	2.7
全体	75	100.0

全体で見ると「使用する材料」39件(52.0%)、「作成の方法」28件(37.3%)、「補てつ物の構造」26件(34.7%)の順となっている。

●「その他」の代表的な記述内容 ※（ ）内は類似回答数

- ・色あい(11) ・説明を行うのは基本的に歯科医師(4) ・形態(2) ・説明は必要ないと思う責任はDrにあるべき。セカンドオピンの意見がいただければ十分である。(1) ・審美と技能(咬合等)の確認(1) ・症例に応じて創意工夫した内容(1) ・患者さんに説明すべき項目は特にありません(1)
- ・チーム医療の一員として紹介(1) ・排列について(1)
- ・材料の物理的性質、経時的な色の変化とか汚れを吸着しやすい、義歯洗剤で金属が変化するなど(1)

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.70〔表9〕を参照

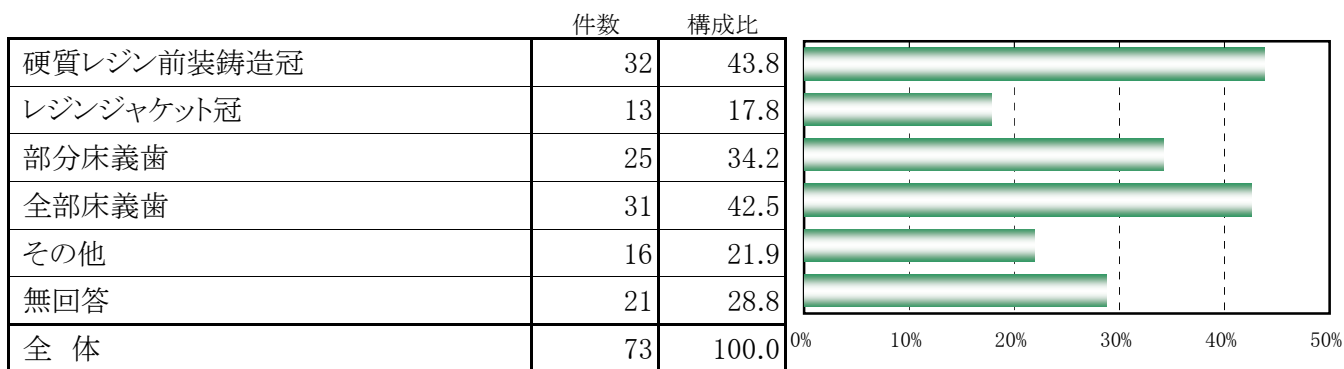
問5. 歯科技工士が1ヵ月に立ち会いを行う頻度

	件数	構成比
1回	19	26.0
2回	7	9.6
3回	9	12.3
4回	5	6.8
5回以上	29	39.7
無回答	4	5.5
全体	73	100.0

全体で見ると「5回以上」29件(39.7%)、「1回」19件(26.0%)、「3回」9件(12.3%)の順となっている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.41〔表10〕を参照

問6. 立ち会いを行う場合の補てつ装置の種類／保険診療



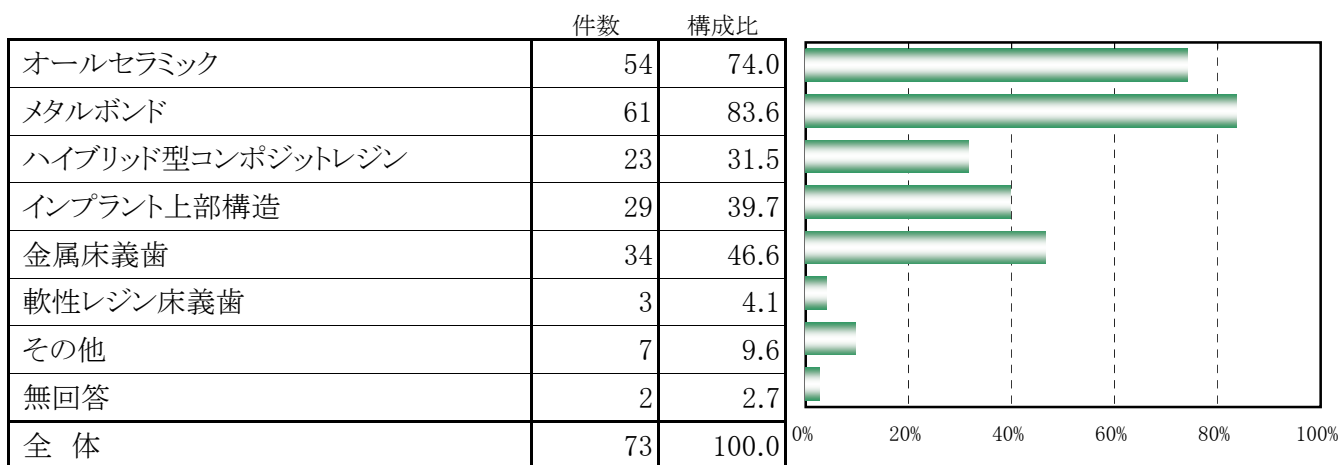
全体で見ると「硬質レジン前装铸造冠」32件(43.8%)、「全部床義歯」31件(42.5%)、「部分床義歯」25件(34.2%)の順となっている。

●「その他」の代表的な記述内容 ※（）内は類似回答数

- ・顎補綴 (5) ・スプリント (2) ・保険では必要なんしも考える (1) ・マウスピース e t c (1)
- ・B i t e など (1) ・OSASスプラント (1) ・その他補綴装置全般 (1) ・即時義歯 (1)
- ・インプラント上部構造 (1) ・咬合拳上床 (1) ・哺乳床 (1)

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.42〔表11〕を参照

問6. 立ち会いを行う場合の補てつ装置の種類／自費診療



全体で見ると「メタルボンド」61件(83.6%)、「オールセラミック」54件(74.0%)、「金属床義歯」34件(46.6%)の順となっている。

●「その他」の代表的な記述内容 ※（）内は類似回答数

- ・ラミネートベニア (2) ・ノンクラスプ義歯 (2) ・インプラント (1) ・小児矯正装置 (1)
- ・その他補綴装置全般 (1)

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.43〔表12〕を参照

問7. 歯科技工士に立ち会いを依頼する目的

	件数	構成比
色調	70	95.9
形態	66	90.4
咬合関係	33	45.2
適合	19	26.0
排列	45	61.6
補てつ装置に関する説明	5	6.8
その他	10	13.7
無回答	0	0.0
全体	73	100.0

全体で見ると「色調」70件(95.9%)、「形態」66件(90.4%)、「排列」45件(61.6%)の順となっている。

●「その他」の代表的な記述内容 ※（）内は類似回答数

- ・患者さんからの希望(2) ・セカンドオピニオン(1) ・患者の口腔内状態を把握してもらう(1)
- ・患者さんに製作担当者を紹介する(1) ・義歯修理の方法と要する時間の打合せ(1)
- ・相手が生きた人間であることが理解してもらう。完成品の評価を直接技工士に伝えたい。(1)
- ・治療計画(1) ・自身へのcheck、check(1) ・患者の個性を把握すること(1)

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.44〔表13〕を参照

問8. 歯科技工士の立ち会いを患者さんに説明したか

	件数	構成比
説明した	68	93.2
説明しなかった	3	4.1
無回答	2	2.7
全体	73	100.0

全体で見ると「説明した」68件(93.2%)、「説明しなかった」3件(4.1%)の順となっている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.45〔表14〕を参照

問9. 最終補てつ装置に対する患者さんの満足度

	件数	構成比
満足した	56	76.7
やや満足した	11	15.1
少々不満	0	0.0
不満	0	0.0
無回答	6	8.2
全体	73	100.0

全体で見ると「満足した」56件(76.7%)、「やや満足した」11件(15.1%)の順となっており、ほぼ9割が満足している。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.46〔表15〕を参照

問10. 立ち会いによって補てつ装置の品質向上につながったか

	件数	構成比
つながった	69	94.5
つながらなかった	0	0.0
無回答	4	5.5
全 体	73	100.0

全体で見ると「つながった」69件(94.5%)となっており、ほぼ10割が品質向上につながったと考えている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.47〔表16〕を参照

問11. 患者さんの補てつ装置を作成する際の効果

	件数	構成比
治療のプロセスがスムーズにいった	46	63.0
再作成率が下がった	22	30.1
品質の向上につながった	54	74.0
患者との信頼関係が増した	37	50.7
歯科技工士との関係がよかった	30	41.1
その他	2	2.7
無回答	2	2.7
全 体	73	100.0

全体で見ると「品質の向上につながった」54件(74.0%)、「治療のプロセスがスムーズにいった」46件(63.0%)、「患者との信頼関係が増した」37件(50.7%)の順となっている。

●「その他」の代表的な記述内容 ※（）内は類似回答数

- ・歯科技工士も臨床の現場について理解が深かった（1）

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.48〔表17〕を参照

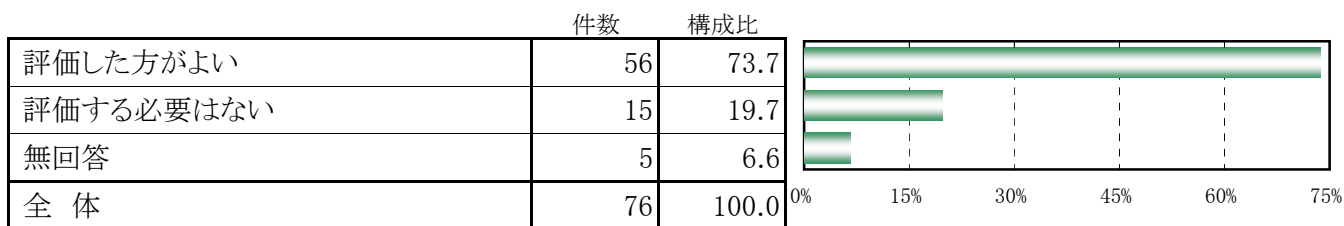
問12. 立ち会いを行った場合の費用の請求について

	件数	構成比
請求された	4	5.5
請求されなかった	59	80.8
無回答	10	13.7
全 体	73	100.0

全体で見ると「請求されなかった」59件(80.8%)、「請求された」4件(5.5%)の順となっている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.49〔表18〕を参照

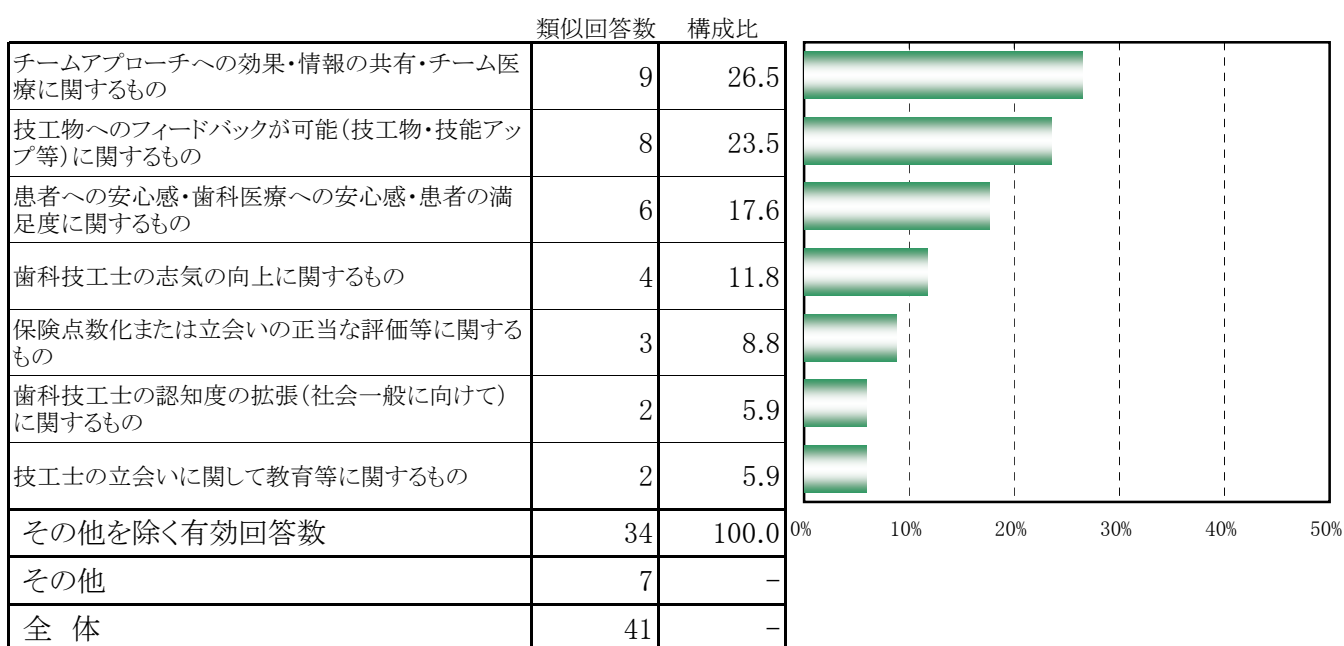
問13. 保険診療の際に立ち会い費用を診療報酬として加算評価することについて



全体で見ると「評価した方がよい」56件(73.7%)、「評価する必要はない」15件(19.7%)の順となっている。

※プロフィール別のクロス集計結果は、別添P.50〔表19〕を参照

問14. 歯科技工士の患者への立ち会いについての意見



歯科技工士の患者への立ち会いについての自由記述意見を上記の8種の系統に分類し、「その他」を除く有効回答数にて構成比を算出した。

その結果「チームアプローチへの効果・情報の共有・チーム医療に関するもの」9件(26.5%)、「技工物へのフィードバックが可能(技工物・技能アップ等)に関するもの」8件(23.5%)となり、全体の意見中のちょうど半数を占めていた。